

第2次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画

令和3年度 事業評価シート  
(協働事業)



協働事業		No. 2 事業名 奈良市ボランティアセンターの運営							
部名	市民部	課名	地域づくり推進課						
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活	展開方向	① ボランティア・NPO活動の活性化 ボランティア活動の拠点施設として、市民の活動を支援するための奈良市ボランティアセンターの充実を図るとともに、奈良市ボランティアインフォメーションセンターにおいて、より幅広い公益活動に関するきっかけづくりを推進します。				
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流（地域間交流）						
	施策	1-01-02	市民交流の活性化						
相手方の名称	(社福) 奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年度）					
令和3年度事業費	予算額	26,589	決算(見込)額	26,588	(単位：千円)				
事業の概要・目的	市民の地域福祉活動への積極的な参加促進を図るとともに、さまざまな分野で広がりを見せるボランティア活動を支援し、やさしさとふれあいのある住みよい奈良のまちづくりを目指す。								
目標指標	指標名	利用人数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	21,400	21,675	21,950	22,225	22,500	22,500
実績値	19,904	19,893	22,068	18,448	6,996	8,938			
令和3年度取組内容	指定管理事業に加え、ボランティア活動上の事故等のリスクに対応すべく、各種ボランティア保険の加入促進や年々増加傾向にある事故への迅速な対応を行った。また、奈良市における災害ボランティアセンターの運営体制の調整整備を引き続き調整している。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1		
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				4	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				5	4	
評価点						39	39

総合点	78	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	ボランティアセンターの設置目的である、市民の自主的な参加による自発的な活動の促進、市民福祉の向上について、指定管理者が指定管理料を効果的に配分しながら、自主事業を展開するなど、費用対効果に優れた管理運営を行うことができた。 また、ボランティア登録制度の運営やコロナ対応にも適宜話し合いながら進めることができた。	新型コロナウイルス感染の対応でイベント開催が難しい中、館の利用状況等を踏まえながら登録ボランティア団体の活動ニーズに対しても柔軟に対応していただいたことにより無事にボランティアフェスティバルを開催することができた。また市ボ連活動へのポイント付与の仕組みづくりについてもご尽力いただいたことなどは協働によって得られた大きな効果であると考えている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も市民活動の拡充、グループ間の交流、活動の支援、利用促進、ボランティアセンターとしての機能の整備などについて、一段と積極的な取組が行われることを期待する。コロナ禍において利用が落ち込んでいるが、コロナ後を見据え、より一層ボランティアの活性化に取り組んでいただきたい。	上記のイベント開催に限らず、月1回のボランティア代表者会議にも同席していただき、情報の共有はできていますと考える。しかしながらボランティアセンターの老朽化によりトイレ、照明器具や調理器具など様々な場所の故障が目立ってきている。予算的には厳しいものがあるとは思いますが対応していただきたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	3	事業名	にぎわいのあるまちづくり事業							
部名	総務部		課名	総務課保健所・教育総合センター管理室及びセンター内全課						
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活			展開方向	①	ボランティア・NPO活動の活性化		
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流（地域間交流）				協働によるまちづくりを推進するために、市民やボランティア・NPO、自治会などの市民公益活動団体と行政との役割分担を構築し、市民相互の活動を支援します。			
	施策	1-01-02	市民交流の活性化							
相手方の名称	JR奈良駅西地区の自治会			協働事業の実施手法	実行委員会・協議会					
実施の時期	通年			事業開始年度	平成23年度					
令和3年度事業費	予算額	320			決算(見込)額	0				(単位：千円)
事業の概要・目的	地域住民と市職員が協働して「にぎわいのあるまちづくり事業」を実施する。この事業は、市場やコンサート、セミナー等などの集客イベントを実施し多くの市民の方に、はぐくみセンターを知っていただき、有効利用していただくこと、地域の活性化を図ること、JR奈良駅西のまちづくりに寄与することを目的とする。									
目標指標	指標名	来館者数の増加								
	単位	千人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	200	210	220	220	220	220	
実績値	204	219	222	214	89	103				
令和3年度取組内容	人と人が出会いふれあうことで地域の絆を深めることを目的とする「にぎわいのあるまちづくり事業」については、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い感染対策（3密の回避・人との距離の確保・マスクの着用・手洗い等の手指衛生・換気など）を徹底してもクラスター発生リスクを払拭できなかったため、感染リスクの高い行動を回避するべく事業を中止した。さらに、市民の安全安心が最優先であると考え、新型コロナウイルス対策業務を行う保健所機能を担保するため事業を中止した。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2	1					
← ← → → できた 少しか どちらとも書かない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							—	—
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							—	—
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							—	—
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。								
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							—	—
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。								
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							—	—
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							—	—
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							—	—
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							—	—	
	評価点							0	0	

総合点	0	総合評価					-
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	4	事業名	男女共同参画活動団体協働事業							
部名	市民部		課名	共生社会推進課 男女共同参画室						
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活			展開方向	①			あらゆる分野の政策・方針の決定及び実施の場への女性共同参画の推進
	基本施策	1-02	男女共同参画				男女共同参画の視点を持ち、あらゆる分野で活躍できる女性の人材の育成と活用に努めます。			
	施策	1-02-01	男女共同参画社会の実現							
相手方の名称	女性団体等			協働事業の実施手法			共催			
実施の時期	通年			事業開始年度			平成17年度			
令和3年度事業費	予算額		1,035		決算(見込)額		599 (単位:千円)			
事業の概要・目的	男女が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を市民参画により目指す。									
目標指標	指標名		「市民講座」の受講者アンケートによる満足度を令和3年度を目標に85%までに上げる。							
	単位	率(満足度)	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	92	70	75	80	85	85	
実績値	61	66	71	82	77	69				
令和3年度取組内容	市民団体及び市民グループ企画の市民感覚から発した「市民講座」とすることで市民のニーズに合った講座を開催し、チラシ・ポスター作成、しみんだよりやホームページへの掲載、マスコミ等への広報を行うことで講座の周知を図った。また、参加率やアンケート結果を踏まえ、次回へとつなげる。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価				
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解	自主性尊重			自立化	目的共有	相互補完	公開
← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった						お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5
						お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4
						(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4
						(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4
						協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4
						お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4
						協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4
						協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4
					事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	
					評価点	39	39	39	39	39	39	39	39	39

総合点	79	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	女性の自立や男女共同参画に関する活動をしている団体から企画案を出してもらうことで市民ニーズにあった内容の講演会を開催することを目指した。それらを企画・立案の団体と協働し、様々な意見を事業に反映することで男女共同参画社会への実現へ寄与できた。	・ 講座開催時、機関紙発行等に協力が得られた。 ・ 講座を開催することで、団体活動を一般市民への周知する機会でもあり、一緒に学ぶことで会員にも良い影響を与えている。 ・ コロナ禍であったが、団体活動に役立つ情報交換を行い、活動の情報を発信することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	市民講座の満足度においては、目標値に達することができず、内容がニーズに合ったものであったか次回の開催に向けて検討する必要がある。また、団体員の高齢化と加入者の伸び悩み等で事業実施が困難にならないよう団体の育成についても考えていきたい。	・ コロナ禍で人を集めるのは大変であったが、市民講座を開催できた。会員の高齢化が顕著となりバリアフリーの会場が必要。 ・ 講座のアンケートにより検討課題の発見があり、次の団体活動へ活かせる。団体のPRと捉え、会員の高齢化に伴う新規会員の獲得が期待できると考える。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	5	事業名	地域人権教育支援事業						
部名	市民部		課名	共生社会推進課					
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活			展開方向	① 人権教育の推進		
	基本施策	1-03	人権・平和				地域における人権教育の推進を図るため、奈良市人権教育推進協議会と協働・連携します。そして、地域活動としての人権学習を通して人権問題への認識を深めることにより、全市レベルでの市民意識向上に努めます。		
	施策	1-03-01	人権と平和の尊重						
相手方の名称	奈良市人権教育推進協議会			協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年			事業開始年度	昭和48年度				
令和3年度事業費	予算額	1,458		決算(見込)額	1,458		(単位：千円)		
事業の概要・目的	行政と市民との中間団体である「奈良市人権教育推進協議会」と協働し、地域における人権教育の推進を図り、「奈良市人権文化のまちづくり条例」の具体化を図る。								
目標指標	指標名	活動地区数の増							
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	40	40	40	40	40	40
実績値	33	32	32	29	15	18			
令和3年度取組内容	運営団体のあり方や地区別研修会、指導者講座、人権講座等の事業実施についての検討を進め、より自主的な活動を行うよう、また、参加者が増えるよう双方協議しながら改善を図った。またコロナ禍ではあったが、感染症対策を徹底し、参加型の人権講座である「なるほど！人権講座Ⅴ」を引き続き実施し、地域の中で人権啓発のリーダー的存在になれる人材の育成に取り組んだ。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価						協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解	5	5
← ← → → ↓ ↓ ↑ ↑ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった						相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
						自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	5
						自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	5
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
						相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
						公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
						相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	4
						期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
						評価点		42	41

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地区別研修会や指導者講座・人権講座等の実施により、地域における人権教育の推進を図り、すべての人が真に尊重される自由で平等な社会の実現と、人と人とのつながりを大切にしたいふれあいのあるまちづくりの実現に向けて、一定の成果が得られた。またコロナ禍ではあったが、感染対策を充分講じたうえで、地域の人権啓発のリーダー的存在になれる人の育成を目指す「なるほど！人権講座Ⅴ」を開催することができた。	協働開催することで双方向のコミュニケーションを図りながら事業を推進することができ、地区別研修会や指導者講座・人権講座等を充実させることができた。未実施地区の解消については対象地区への働きかけ(訪問、電話)で一部解消することができた。また事業実施を通して各地区や関係団体との信頼関係の構築に結び付けることが出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	講座内容の充実や地区別研修会等の成果を、いかにして地域における人権教育の推進につなげていくか。また各講座等への参加者を増やすためにいかに広報していくかが課題である。	未実施地区の解消を図るために地区人推協に積極的な働きかけを行なうことが引き続き必要である。また①リーダー養成講座として指導者講座を充実させること、②まちづくりの人権課題を掘り下げることで、実施地区のより自主的な活動を促していきたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	6	事業名	地域で決める学校予算事業（地域学校協働活動本部）							
部名	教育部		課名	地域教育課						
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	教育内容の充実		
	基本施策	2-01	学校教育				地域教育協議会の強みを生かし、地域と連携した教育活動支援を推進します。			
	施策	2-01-01	特色のある教育の推進							
相手方の名称	地域教育協議会			協働事業の実施手法	委託					
実施の時期	通年			事業開始年度	平成20年度					
令和3年度事業費	予算額	65,629			決算(見込)額	55,435			(単位：千円)	
事業の概要・目的	中学校区を単位として、地域全体で学校を支援し、子どもたちを守り育てる体制をつくり、子どもたちの教育活動の充実と地域の教育力の再生、地域コミュニティの活性化を図る。地域と学校が連携・協働し、中学校区で取り組む事業と、各学校園で特色のある教育活動を実施するために取り組む事業を全中学校区で実施する。									
目標指標	指標名	会計担当者設置校区数								
	単位	校区	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	13	15	17	19	21	21	
実績値	12	12	14	15	15	19				
令和3年度取組内容	これまでに引き続き、各中学校区地域教育協議会に事業委託を行うとともに、地域教育協議会と学校が「目指す子ども像」を共有した上で、連携・協働しながら地域全体で子どもを守り育てる体制づくりを支援した。新型コロナウイルス感染症による影響は大きかったが、地域での子どもの学びが止まらないよう、十分な感染予防対策をし、安全な範囲で実施した。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価				
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解	自主性尊重			自立化	目的共有	相互補完	公開
← ← → → ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかつた						お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4
						お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4	5	4	4	4	4	4
						(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	4	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	4	4	4	4
						(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	4	4	4	4
						協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4
						お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4
						協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	3	4	4	4	4	4	4
						協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4
						事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4
						評価点	38	35						

総合点	73	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	各地域教育協議会と学校がめざす「子ども像」を共有することで、地域全体で子どもを守り育てるという意識がさらに高まった。新型コロナウイルス感染症による影響は多大にあったが、地域での子どもの学びが止まらないよう、活動内容や方法を精査し、子どもたちの学びの場・体験の場が確保された。	・地域と学校が共通理解を図りながら進められたことが教育活動の活性化につながった。 ・業務を分担することができ、負担が減った。 ・地域と学校園の結びつきを強くし、互いの存在を尊重できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域人材の高齢化や固定化、事業を継続していくための次世代の地域人材不足が多く地域でみられる。人材育成を目的とした研修の実施、SNS等による広報活動をより一層強化するなど、地域人材の育成や確保するための工夫が必要である。また、経費の取扱いや会計事務についても再考の必要がある。	・公金を扱っている以上仕方ない部分もあるが、もう少し柔軟なお金の扱いに工夫してほしい。 ・教育委員会、学校、地域社会との連携をどのように高めていくのか三者で考える必要あり。 ・行政としての、予算面や市民へのわかりやすい広報などのバックアップをお願いしたい。 ・事務手続きを簡素化してほしい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	





協働事業									
No.	9	事業名	放課後子ども教室推進事業						
部名	教育部		課名	地域教育課					
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	② 地域の教育力の充実		
	基本施策	2-02	青少年の健全育成				各小学校区においても、学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもたちの安全・安心な居場所を設け、地域ぐるみで子どもを育てる仕組みづくりを進めます。		
	施策	2-02-01	青少年の健全育成						
相手方の名称	小学校運営委員会			協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成19年度				
令和3年度事業費	予算額	19,712			決算(見込)額	12,489			(単位:千円)
事業の概要・目的	子どもたちが地域社会の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進するため、放課後等に小学校の余裕教室等を活用し、地域の方々の参画を得て活動を進める。勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を、全小学校区で実施する。								
目標指標	指標名	放課後子ども教室の年間実施日数							
	単位	日/校	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	33	34	34	35	35	35
実績値	31	31	31	27	14	13			
令和3年度取組内容	これまでに引き続き各小学校運営委員会に事業委託を行うとともに、各運営委員会・小学校・バンビーホームと連携・協働しながら子どもたちに多様な教育活動を提供するための支援を行った。新型コロナウイルス感染症による影響は大きかったが、地域での子どもの学びが止まらないよう、十分な感染予防対策をし、安全な範囲で実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1				
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					4	5	
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					5	4	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					5	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					4		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					4	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					4		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					4	4	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					4	4	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					4	4	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					4	4	
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					4	4		
評価点							38	37	

総合点	75	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	コーディネーターやボランティアなど地域人材の参画により、スポーツや学習・伝統文化等さまざまな分野の活動の機会を提供することができた。また、地域全体で子どもを見守り、育てるという意識が広がってきている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが、地域の方がこれだけ自分たちを大切に思ってくれているということを実感できた。</li> <li>放課後子ども教室を通して、同じ学びを求める友だちと仲良くできる児童が増えた。</li> <li>行政も関わってくださっているという安心感が保護者にも伝わり、それが参加意欲の向上につながっている。</li> <li>様々な体験や交流の機会を提供することで、子どもたちにとって学びの機会や地域人材との交流とともに、地域人材のやりがいにもつながっている。</li> </ul>
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域人材不足が、多くの運営委員会で課題となっている。SNSや報道機関等を利用した広報活動の強化や、人材育成を目的とした研修を実施する等の工夫が必要である。また、他校区との情報・意見交換の機会を設け、交流しながら互いに学べたり、つながれる体制を整えたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営は学校になっている。この実態では協働とはいえない。もっと地域と行政が密接に関わり、人材を確保して運営をしていく必要がある。</li> <li>行政と情報交換、意見交換の場、他の放課後子ども教室との情報交換、意見交換の場など縦のつながり、横のつながりが持てるような機会があればと思う。</li> <li>事務手続きの簡素化。</li> </ul>

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	10	事業名	青少年野外体験施設(①黒髪山キャンプフィールド ②青少年野外活動センター)の運営管理							
部名	教育部		課名	地域教育課						
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化				展開方向	③	青少年健全育成活動の推進	
	基本施策	2-02	青少年の健全育成					青少年が健やかに成長できる体験の場所や機会を提供します。		
	施策	2-02-01	青少年の健全育成							
相手方の名称	①奈良市黒髪山キャンプフィールド運営協議会 ②特定非営利活動法人 奈良地域の学び推進機構			協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年			事業開始年度	①平成18年度(指定管理者制度導入年度) ②平成21年度(指定管理者制度導入年度)					
令和3年度事業費	予算額	27,725			決算(見込)額	27,708 (単位:千円)				
事業の概要・目的	自然環境の中での野外活動、レクリエーション等を通じて青少年の心身の健全な育成を図ることを目指す。									
目標指標	指標名	利用者数の増加								
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	12,040	12,080	12,120	12,160	12,200	12,200	
実績値	12,279	12,497	11,888	10,881	4,495	5,217				
令和3年度取組内容	指定管理者と協議・連携し、快適な施設と魅力的な事業の提供に努めるとともに、広報の在り方について創意工夫し、利用者数の増加を目指した。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価				
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解	自主性尊重			自立化	目的共有	相互補完	公開
← ← → → ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった						お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5						
						お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4						
						(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4							
						(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			5					
						(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4							
						(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4					
						協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4						
						お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4						
						協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	4						
						協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4						
						事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4						
						評価点		39	38					

総合点	77	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	指定管理者の経験やノウハウを施設の管理運営に活かすことで、快適で安全な施設の提供ができた。また、行政としてもホームページやしみんだより、SNSに掲載するなど広報面で協力が出来た。	【①黒髪山キャンプフィールド】 市ホームページ等の情報発信により、広報の面で効果があった。メールでの申込みを可能にしたことで、利便性が向上した。 【②青少年野外活動センターの運営管理】 多くの物事を押し進めることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	利用者の固定化が見られるため、新規の利用者を増やす必要がある。指定管理者と協議・連携し、広報の手法を工夫し効果的なPRを行っていく。	施設が老朽化してきているが、今後も利用者が快適に使用できるように、ビジョンに沿った改修等を適宜行っていくため、密な情報交換と推進を求める。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	11	事業名	公民館の運営管理						
部名	教育部	課名	地域教育課						
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ① 生涯学習活動の推進 地域の課題解決に向けた学習活動を含め、市民の多様な学習に対応できる幅広い内容や人材の確保、機会の充実に努めます。				
	基本施策	2-03	生涯学習						
	施策	2-03-01	生涯学習の推進						
相手方の名称	公益財団法人奈良市生涯学習財団		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年度）					
令和3年度事業費	予算額	606,000		決算（見込）額	605,182（単位：千円）				
事業の概要・目的	いつでも、どこでも、だれでも学べる学習環境の醸成と整備を促進するとともに、学びの成果が活力ある地域づくりにつながる生涯学習活動を推進する。また、市民の生涯学習活動の拠点となる公民館を管理し、市民が健康かつ豊かな生活を送ることができる機会を提供する。								
目標指標	指標名	利用者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	610,000	620,000	630,000	640,000	650,000	350,000
実績値	591,696	610,304	557,845	538,540	272,038	330,927			
令和3年度取組内容	市民の多様なニーズに応える各種事業を企画・実施するとともに、市民の立場に立った施設運営を行った。新型コロナウイルスの市の方針に基づき、原則臨時休館や貸館の制限、主催事業の一部中止を行った。感染対策を行いながら、市民への学習機会の提供に努めたほか、ホームページのリニューアルを図り、利便性向上につなげた。また、地域課題の解決に向けた取組を行うため、地域とのつながりを重視するとともに、市との情報共有に努めた。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2			1
← ← → → ↓ ↓ ↑ ↑ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				4	3
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				3	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				3	3
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				3	4	
	評価点				35	38	

総合点	73	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	新型コロナウイルス感染症拡大防止による市の方針を共有するとともに、市民のニーズに沿った多様な事業を実施することができ、市の生涯学習推進につながった。	臨時休館への対応やWi-Fi機器導入などのため、市の所管課とこまめに連絡調整や協議を行ったことにより、市の方針を共有するとともに互いの立場や役割を理解しながら公民館の事業展開及び施設運営に当たることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	協働相手が行政に依存せずに運営ができるよう、自立化に向けた方策を共に検討する必要がある。	老朽化する施設・設備などについて情報共有を行いながら、安全で使いやすい施設運営に努めたい。また、市民の多様なニーズに応える事業の計画・実施に向けて、さらに協働を進めていきたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	12	事業名	おはなし会						
部名	教育部		課名	中央図書館					
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ② 子どもの読書活動の推進 子どもの読書活動に関わる環境の整備・充実に努めます。				
	基本施策	2-03	生涯学習						
	施策	2-03-02	図書館の充実						
相手方の名称	ボランティア		協働事業の実施手法	共催					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度					
令和3年度事業費	予算額	590		決算(見込)額	162 (単位:千円)				
事業の概要・目的	図書館において「おはなし会」を開催し、絵本の読み聞かせ・おはなし・パネルシアター・人形劇などを通して、物語などのすばらしさを伝え、子どもの想像力と豊かな感性を育むとともに、読書への興味へと導いて、子どもの健全育成を図る。								
目標指標	指標名	参加人数							
	単位	参加人数	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
実績値	1,590	1,446	1,053	1,476	781	557			
令和3年度取組内容	新型コロナウイルス感染防止に努めながら「おはなし会」を開催し、絵本の読み聞かせ・おはなし・パネルシアター・人形劇などを開催した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価	
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	3	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	3	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	3	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	3	3	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	3	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3	
	評価点			32	27

総合点	59	総合評価					C
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	コロナで事業実施自体が難しく、団体として望む開催形態が感染症対策のため実現できない等の課題はあったが、事業を再開できたことはよかった。	コロナで事業実施自体が難しい中、何とか子どもたちのために事業を再開できてよかった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	参加人数の問題などをコロナ対策と両立しながら解決して、元の開催形態に戻していきたい。	コロナ対策のため現在は一回の入場者を3人に行っているが、家族が同席できない等の問題もあるため、今後コロナ対策の緩和をみながらではあるが一回あたりの参加者数を5~6人に戻したい。

## 総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目

要因及び今後の改善策	子どもたちのための事業実施という点では目的を共有しているが、ボランティア側としてはより多くの子どもを対象として開催したいところ、コロナ対策の中で人数制限を実施しながらの開催を要請していた。このため団体側には思うような活動が進まなかったという思いがある。今後ポストコロナの情勢変化を見極めながら、団体との意思疎通を図って事業を進めていく。
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	13	事業名	市民考古サポーター活動事業						
部名	教育部		課名	文化財課埋蔵文化財調査センター					
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ① 文化財の保護・啓発 文化財保護に関わるボランティア・市民活動などとの連携を促進する。				
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承						
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用						
相手方の名称	寧楽考古楽倶楽部		協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成21年度					
令和3年度事業費	予算額	72	決算(見込)額	72	(単位：千円)				
事業の概要・目的	寧楽考古楽倶楽部は、平成20年度「市民考古サポーター養成講座」の修了者が組織した団体で、発掘調査・遺物整理・展示公開・講演・説明会等、埋蔵文化財調査センターが行う考古学的調査研究、保存活用事業に参加支援し、考古学を自由な立場で楽しみながら学び、その活動を通じ文化財保護へ寄与してもらう。								
目標指標	指標名	市民考古サポーターの人員維持							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	85	85	100	102	104	100
実績値	93	99	106	108	103	103			
令和3年度取組内容	市の活用事業計画に対応する形で、2ヶ月毎に活動計画を策定し、遺物整理・展示公開・講演会・市民考古学講座・発掘調査現地学習を実行した。その後各事業ごとに協働内容を確認し、意見・要望を整理したうえで、倶楽部の役員会において担当職員と役員で今後の方向性等を協議した。令和3年度末日の市民考古サポーター数は新規加入者と退会者が同数であったため、横ばい状態である。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	対等性	相互理解				
5	4	3	2	1	4	5
←	←	→	→			
できた	少しできた	どちらとも書えない	あまりできなかった	できなかった	3	4
					4	4
					5	5
					4	4
					4	4
					5	4
					38	40
評価点						

総合点	78	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	多彩な埋蔵文化財の活用事業について、事前研修を行うことにより、お互い学び合い、専門性の高い活用事業を少ない経費で実施できた。	今年度も昨年同様、コロナ禍でサポーター活動が制限されたが、そんな中でも感染防止対策が講じられ、継続的なサポーター活動を行うことができた。また、赤田横穴群現場公開、富雄丸山古墳現地公開も無事終了することができた。また、倶楽部で計画実施した講演会や遺跡見学会ではセンターの全面的な協力を得ることが出来た。今年度から始めた「大安寺塔院地区の環境美化活動」については文化財課やセンター職員と協働し、実施した。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	業務内容を検討し、さらなる協働の機会と内容の充実を図る一方、新型コロナウイルス感染防止など、健康にも十分留意して協働していきたい。	今年度の市民考古学講座はコロナウイルス感染防止の観点から、募集人員を縮小して開催され、8名の新メンバーを迎えることができた。先輩サポーターが新人サポーターを指導し、センター職員が適時アドバイスする制度は着々と定着しつつある。今後もこの手法を継続し、サポーターの技量と知識の向上へのご指導をお願いしたい。また、倶楽部が計画した講演会や遺跡見学会についても、今までどおりのご協力ををお願いしたい。今年度から始めた「大安寺塔院地区の環境美化活動」については来年度以降も継続して実施を計画中で、引き続きの協力ををお願いしたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	14	事業名	文化財講座						
部名	教育部		課名	文化財課					
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ① 文化財の保護・啓発 市民が奈良の歴史文化を知る機会となる文化財活用普及啓発事業の充実を図ります。				
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承						
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用						
相手方の名称	文化財関連団体、公益財団法人奈良市生涯学習財団（都跡公民館）等		協働事業の実施手法	共催					
実施の時期	年1回		事業開始年度	共催での実施は平成27年度から					
令和3年度事業費	予算額	468		決算(見込)額	107 (単位：千円)				
事業の概要・目的	市民に広く奈良の文化財を周知し、理解と関心を深めてもらい、保護や活用に積極的に関わる契機として、体験学習・見学等を組み合わせた講座を開催する。								
目標指標	指標名	協働での実施回数							
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	3	2	2	2	2	1
実績値	3	2	3	1	1	1			
令和3年度取組内容	従来実施している当該事業の一部を協働で行った。都跡公民館との協働により、公民館に隣接する旧田中家住宅（市指定文化財）を活用し、かまどでの炊飯等の昔の暮らし体験を含む講座を実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			5	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			5	5	
評価点					42	43

総合点	85	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市指定文化財の民家を活用して、昔のくらしを体験し、学ぶ機会を提供することができた。参加者の募集にあたっては、公民館側が館の利用者に積極的に声をかけてくれ、結果、幅広い年齢層の交流がうまれた。	専門部署と協働したことで、市民の方々に文化財についての知識、保護の重要性やその意義を理解し深めてもらうなど、実施目的を果たすことができた。また、コロナ禍において、内容を縮小した実施が続いている中でも新たな事業の実施方法を確立できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も、双方のもつ強みを生かしながら文化財講座を続けていきたい。公民館で行う講座や催し等にも、ぜひ当課の施設を活用してもらいたい。	公民館との二者での協働だけでなく、公民館に登録している団体等、複数との協働を模索したい。そのためにも文化財使用の手続きが簡略化される等の配慮が必要である。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	15	事業名	史料保存館展示関連見学会							
部名	教育部		課名	文化財課						
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	文化財の保護と啓発		
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承				市民が奈良の歴史文化を知る機会となる文化財活用普及事業の充実を図ります。			
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用							
相手方の名称	NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会「朱雀」			協働事業の実施手法	共催					
実施の時期	年4回			事業開始年度	平成28年度					
令和3年度事業費	予算額	2,425			決算(見込)額	2,297			(単位:千円)	
事業の概要・目的	史料保存館の展示テーマに合わせた市内の現地見学と、史料保存館の展示見学を行い、奈良の歴史文化に対する知識を深め、文化財保護の推進を図る。									
目標指標	指標名	実施回数								
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	1	4	4	4	4	4	
実績値	1	4	4	4	1	1				
令和3年度取組内容	ホームページやしみんだより、ツイッターに解説付きガイドツアー募集の記事を掲載し、NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会「朱雀」の案内で、史料保存館所蔵の古地図を活用した解説資料をもとに、史料保存館展示にゆかりの地を歩く見学会を行った。あわせて同館職員の見学による史料保存館の展示を見学を実施し、参加者アンケートを基に今後の事業内容を検討した。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価			
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解	自主性尊重	自立化			目的共有	相互補完	公開
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった						お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5						
						お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5						
						(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5							
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			5					
						(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4							
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				4				
						協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5						
						お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5						
						協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4						
						協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4						
					事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5							
					評価点		40	42						

総合点	82	総合評価	A				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	史料保存館では館員による展示解説と古地図を活用した解説資料作成を行い、ボランティアガイドがわかりやすい解説で現地見学を引率することにより、双方の長所を活かしたガイド付ツアーを実施することができ、参加者に奈良の新たな歴史情報を発信することができた。	今年度はコロナ禍の影響により4企画中1企画(川路聖謨巡見の地・前半)だけの実施となった。川路聖謨の人間性や奉行としての実績を、日記や史料保存館での解説やご教授で、理解できた。お客様には巡見のそれぞれの場所で解説した。川路聖謨の人となりや奉行の事が理解できたと、喜ばれて帰られた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルス感染症流行により、当初計画回数のうち3回中止にせざるを得ず、その調整に時間と労力を費やした。実施できた回については、朱雀の会の周到な準備で無事遂行できた。また少人数制にしたことで、参加者にとって満足できる結果となった。今後も同様の対応をお願いしたい。	コロナ禍の為に、ツアー実施の可否検討で、時間を取った。今後コロナが収束になったら、スムーズに実施可能になる。 1ガイドで何人のお客様を担当するのか検討したい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	16	事業名	上深川歴史民俗資料館						
部名	教育部		課名	文化財課					
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ③ 文化財保存・展示施設の整備 史料保存館など文化財保存公開施設の充実を図ります。				
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承						
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用						
相手方の名称	奈良市上深川町自治会		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	昭和53年度					
令和3年度事業費	予算額	208		決算(見込)額	210 (単位:千円)				
事業の概要・目的	地域の文化財保存公開施設として適切に管理を行い、特に当該地域の特色ある文化財である重要無形民俗文化財「題目立」の保存公開に寄与する運営を行う。								
目標指標	指標名	重要無形民俗文化財「題目立」の保存公開、施設管理に要する日数							
	単位	日	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	29	28	28	28	28	28
実績値	49	50	50	55	50	49			
令和3年度取組内容	「題目立」の合同練習、現地公開のために開館した。また見学希望者への公開のために随時開館した。そのほか施設維持管理、収蔵資料の保存等のために毎月定期的に点検等を行った。諸事業及び管理にあたってはコロナ感染防止について十分配慮しながら実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			5	5	
評価点					43	43

総合点	86	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	事業の目的である、地域の特色ある文化財の保存・継承に資するうえで、施設の所在する地域と当該文化財そのものを熟知する団体が、施設を管理し運営したことで、当該地域の無形民俗文化財の保存、継承に効果を発揮することができた。	地域に伝えられた大切な伝統行事を公開し、関連する資料や装束などを保管して、後世に引き継いでいくための活動の拠点施設を、市と協力して管理運営することができたことで、安定的に継承活動をすることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	コロナ禍での継承活動について共にあり方を模索する必要があるが、施設公開、見学者対応についても、現地の管理者として、見学会の拡充や充実に向けつつ、感染防止の徹底と継承の意識づけも進める。	来館者に対する対応や見学資料の作成、その他施設の活用に加えて、コロナ対策についても、市と相談しながら進めていきたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	17	事業名	ならまちわらべうたフェスタ						
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課					
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	③	伝統文化の普及と継承	
	基本施策	2-05	文化振興				伝統文化の普及のために、市民が伝統文化に触れる機会を提供する等の支援を行います。		
	施策	2-05-01	文化の振興						
相手方の名称	文化団体・NPO・財団等			協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	10月			事業開始年度	平成5年度				
令和3年度事業費	予算額	1,503		決算(見込)額	1,354		(単位：千円)		
事業の概要・目的	わらべうたは子どもたちによって遊びの中で伝えられ、それぞれの時代の子どもの様子や人々の文化が表現されている。このわらべうたを貴重な無形文化遺産と位置づけ広く継承することと、「ならまち」の地域活性化と文化振興を目的にわらべうたをベースとしたおまつりを開催する。								
目標指標	指標名	ならまちわらべうたフェスタ協力団体数の増加							
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	31	32	40	45	50	35
実績値	35	35	31	33	30	31			
令和3年度取組内容	「ならまち」の地域活性化と文化振興を目的としたわらべうたのイベントを開催した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2	1					
← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							3	3
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							4	3
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							3	3
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							4	3
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							3	3
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							3	3	
評価点								33	31	

総合点	64	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	コロナ禍でもあり、令和2年度に引き続き現地回遊型の開催は見送られたが、各団体の特長に応じたWebコンテンツを提供し、奈良町の情報発信と地域の活性化に寄与した。	特になし
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	オンライン開催で培った経験をアフターコロナの現地開催に役立ててもらいたい。	特になし

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	18	事業名	奈良市西部会館市民ホール（学園前ホール）の運営						
部名	市民部	課名	文化振興課						
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。				
	基本施策	2-05	文化振興						
	施策	2-05-01	文化の振興						
①	文化の発信と交流								
相手方の名称	日本環境マネジメント株式会社		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度（指定管理者制度導入年度）					
令和3年度事業費	予算額	40,741	決算（見込）額	40,741	（単位：千円）				
事業の概要・目的	西部会館市民ホール（学園前ホール）の設置により、市民の連帯感の育成と文化の向上を図るとともに、ふれあい豊かな地域社会づくりをめざす。 指定期間：平成30年4月1日～令和5年3月31日 開館時間：午前9時から午後5時まで（ただし施設の利用は午後9時半まで） 休館日：月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日 西部会館市民ホールの業務内容：①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自主事業（コンサート、講演、文化講座など）								
目標指標	指標名	来館者数の増加							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	40,000	38,000	38,130	38,481	38,862	39,130
実績値	37,381	35,848	40,967	39,130	14,280	21,758			
令和3年度取組内容	指定管理者と情報の共有、報告や協議等に努め、施設利用者の満足度の高い施設運営と企画・自主事業を実施した。尚、令和2年度に引き続き、依然として新型コロナウイルスの影響が続いており、ホール利用（人数）制限等を行った為、来館者数の目標数値には届かなかった。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			5	5	
	評価点				40	43

総合点	83	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	貸館利用者や企画・自主事業の来場者など多くの施設利用者からのご意見、要望等の把握に努め、それらを踏まえ効率的な施設の管理運営、満足度の高い企画・自主事業を開催することが出来た。	4年間のホール運営を経て、ご利用者様や連携事業団体との信頼関係の基、それまでには接点のなかった高等学校と関係が構築でき、学園前ニュージェネレーションズフェスタという形で若い世代にホール活用する機会創出に繋がった。また、新型コロナウイルスのため中止となったが、フューチャーセッションの実施に向け小さいながらもマルチステークホルダーパートナーシップ（高校生×大学生×地域）として一定の相互理解が図れたことが大きな成果だと考えます。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	安心、安全で親しみある施設として、様々な場面においての適正かつ迅速な対応が求められるため、周辺地域等との強力な連携体制と環境づくりが必要となる	「協働」という言葉は何となく理解できるが、実際に協働とは如何なることを指すことなのか。立場が違えば「協働」の捉え方も多様な概念になるのではないだろうか。その意味合いから可能であれば、“よりよい協働を実現するためには”のイメージで、施設管理者と行政さらに地域住民が参加できる専門有識者の研修（講義・ワーク）の検討をお願いできればと思います。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	19	事業名	北部会館市民文化ホールの運営						
部名	市民部	課名	文化振興課						
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。				
	基本施策	2-05	文化振興						
	施策	2-05-01	文化の振興						
①	文化の発信と交流								
相手方の名称	一般財団法人奈良市総合財団		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度（指定管理者制度導入年度）					
令和3年度事業費	予算額	32,200		決算(見込)額	32,200（単位：千円）				
事業の概要・目的	北部会館市民文化ホールの設置により、市民の自主的な文化活動の促進、教養の向上及び健康の保持を図るとともに、市民の福祉の増進に資する。 指定期間：平成30年4月1日～令和5年3月31日 開館時間：午前9時から午後5時まで（ただし施設の利用は午後9時半まで） 休館日：月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日 北部会館市民文化ホールの業務内容：①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自主事業（コンサート、講演など）								
目標指標	指標名	来館者数の増加							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	130,000	134,000	128,600	119,491	120,682	74,819
実績値	133,895	128,036	93,080	74,819	33,828	46,418			
令和3年度取組内容	指定管理者と情報の共有、報告や協議等に努め、施設利用者の満足度の高い施設運営と企画・自主事業を実施した。尚、令和2年度に引き続き、依然として新型コロナウイルスの影響が続いており、ホール利用(人数)制限等を行った為、来館者数の目標数値には届かなかった。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	対等性	相互理解	自主性尊重	自立化		
5	4	3	2	1	4	5
←	←	→	→		4	4
できた	少しかつ	どちらとも言えない	あまりできなかった	できなかった	4	4
					4	4
					5	5
					4	5
					4	4
					4	4
					4	4
					37	39
					評価点	

総合点	76	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	貸館利用者や自主事業等の来場者など多くの施設利用者からのご意見、要望等の把握に努め、それらを踏まえ効率的な施設の管理運営、地域に根付いた様々な事業を実施することが出来た。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、奈良市からの対応方針が迅速に示されたことで、適切な施設運営を行うことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	施設利用者等のニーズと変化を的確に把握し、地域の特性、施設の特性を活かした施設運営を図るため、周辺地域との強力な連携体制と環境づくりが必要となる。	各種設備機器の老朽化による不具合での施設の長期間使用停止などを避けるために、各種設備機器を更新する等、当館単独では解決不能な課題について行政と連携していきたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	20	事業名	入江泰吉旧居の運営						
部名	市民部	課名	文化振興課						
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。				
	基本施策	2-05	文化振興						
	施策	2-05-01	文化の振興						
相手方の名称	一般財団法人奈良市総合財団		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成26年度（開館年度）					
令和3年度事業費	予算額	10,566	決算(見込)額	10,363	(単位：千円)				
事業の概要・目的	<p>入江泰吉旧居の設置により、奈良を愛した写真家入江泰吉の旧居を保存活用し、その業績の顕彰を図り、もって奈良を愛する心を育むとともに、文化の向上に資する。</p> <p>指定期間：平成31年4月1日～令和6年3月31日</p> <p>開館時間：午前9時半から午後5時まで（ただし入館は午後4時半まで）</p> <p>休館日：月曜日、休日の翌日</p> <p>入江泰吉旧居の業務内容：①旧居の一般公開、②入江泰吉及び写真に関する事業の開催</p>								
目標指標	指標名	来館者数の増加							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値			6,100	6,868	6,930	6,409
実績値	7,033	5,923	7,387	6,409	3,101	3,543			
令和3年度取組内容	<p>指定管理者と情報の共有、報告や協議等に努め、施設利用者の満足度の高い施設運営と企画・自主事業を実施した。尚、令和2年度に引き続き、依然として新型コロナウイルスの影響が続いており、臨時休館を行ったほか、市内全体の観光客数の減少もあり、来館者数の目標数値には届かなかった。</p>								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2			1
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				5	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				5	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				4	4
	自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				4	4
		(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				4	4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				4	3
	評価点				37	34	

総合点	71	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	<p>自主事業や来館者からのご意見、要望等の把握に努め、また来館者への親切丁寧な旧居案内などを通じ、奈良の歴史、文化・芸術への関心を高めることに繋がる施設運営を行うことが出来た。</p>	<p>公立施設であるという事で、入館者に安心感や信頼感を持たれることは強みである。入江泰吉記念奈良市写真美術館のノウハウを土台とし、NPO法人文化創造アルカの奈良の情報をもとに、写真愛好家、奈良を好きな人たちと幅広く事業展開できていると思われる。しかし昨今のコロナ禍では、休館、事業の中止、縮小を余儀なくされたが、互いに情報共有し迅速に対応できたと思われる。</p>
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	<p>情報の共有化と十分な協議を重ねるとともに、積極的に周辺地域との連携を図り、誘客増加に繋がる施策を講じる必要がある。</p>	<p>昨今のコロナ禍では大きく事業が縮小した。新型コロナウイルス感染拡大の危機は収束方向に向かっているが、まだまだ安心できない。そうした危機を意識しながらも事業を積極的に進めていく必要があり、行政とまたは他の団体と協力しながら事業展開を図りたい。</p>

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	21	事業名	奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」						
部名	市民部	課名	文化振興課						
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ④ 「東アジア文化都市」事業主旨に基づく施策の実践 文化庁との共催事業である「東アジア文化都市」事業をはじめ、文化でまちを豊かにする施策を推進します。				
	基本施策	2-05	文化振興						
	施策	2-05-01	文化の振興						
相手方の名称	奈良市アートプロジェクト実行委員会		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成29年度					
令和3年度事業費	予算額	12,207		決算(見込)額	11,309 (単位:千円)				
事業の概要・目的	「東アジア文化都市2016奈良市」の成果を引き継ぐため、平成28年12月に「奈良市アートプロジェクト実行委員会」を立ち上げ、社会課題をアートによって掘り下げ、新たな価値につなげていくための取り組みを進める。								
目標指標	指標名	事業満足度(大変良いと良いの合計)							
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値		80	80	80	80	80
実績値		88	87	93	97	88			
令和3年度取組内容	実行委員会と協議しながら奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」事業を実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
←	←	→	→			
できた	少しかつ	どちらとも言えない	あまりできなかった	できなかった		
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				4	4
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				4	3
自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				3	
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					4
自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				4	
	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					3
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				4	4
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	4
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				3	3
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				4	4
	評価点				34	33

総合点	67
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域の文化団体による自主事業を連携企画として扱うことにより、地域活性化につながる事業の実施方法を行政と団体が一体となり検討することができた。	自らが主催する事業を市事業の枠組みの中で展開することができ、取組みを広く知ってもらう機会となった。また、市の支援をうけて、新たな取組みに挑戦するきっかけにもなった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域の文化団体のニーズをある程度把握することができたが、予算等の問題で協働の方法が限られてしまう。制限があるなかで、どういった方法を取ることができるか工夫が必要である。	団体間のネットワークについて課題が浮き彫りとなった。同分野の団体であっても、お互いの取組みを把握しているわけではないため、今後発展していくためには連携が必要である。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	22	事業名	奈良市都祁交流センター						
部名	市民部	課名	都祁行政センター地域振興課						
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向 市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。			
	基本施策	2-05	文化振興						
	施策	2-05-01	文化の振興						
①	文化の発信と交流								
相手方の名称	一般財団 奈良市総合財団		協働事業の実施手法		指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度		平成18年度（指定管理者制度導入年度）				
令和3年度事業費	予算額	30,300		決算(見込)額	30,300（単位：千円）				
事業の概要・目的	市民の文化振興と福祉の増進を図るとともに、地域間・世代間交流を促進するための文化活動の拠点となる施設の管理を行う。								
目標指標	指標名	利用者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	16,000	18,000	18,100	18,200	18,300	18,300
実績値	20,456	19,484	19,521	16,437	5,058	9,229			
令和3年度取組内容	新型コロナウイルスの影響で中止になった事業もあったが、指定管理者と十分に協議を行いながら、安全・安心で市民に良質なサービスを提供できるよう支援を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			5	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			3	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			3	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			4	5	
評価点					33	34

総合点	67	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	都祁地域の豊かな自然、歴史、文化という魅力と資源を活かした事業展開は新型コロナウイルスの影響で中止になった事業もあったが、世代間交流の拠点として、気軽に来館できる環境づくりを行った。	施設管理運営上の課題等を随時報告することで、お互い共通認識が図られ、問題解決につながった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	多様化する住民ニーズや満足度に対応するとともに、今後も地域性を活かした安全・安心な施設運営と持続可能な自主事業の強化に努めていただきたい。	財団独自の自主性と尊重と施設管理にかかわる適正な予算額の確保を強く求める。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	23	事業名	奈良市都祁生涯スポーツセンターコート等4施設の運営						
部名	市民部	課名	都祁行政センター地域振興課						
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	②	生涯スポーツの推進		
	基本施策	2-06	スポーツ振興						
	施策	2-06-01	スポーツの振興						
相手方の名称	一般財団法人 奈良市総合財団		協働事業の実施手法		指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度		平成22年度（8月供用開始）				
令和3年度事業費	予算額	9,860		決算(見込)額	9,860（単位：千円）				
事業の概要・目的	健康で生きがいを持って暮らせるよう、生涯スポーツ宣言地域としてスポーツ・レクリエーションを通じて健康を維持・推進できるよう安全・安心なスポーツ施設の管理運営を行う。								
目標指標	指標名	利用者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	19,500	20,000	20,500	21,000	21,500	21,500
実績値	15,711	17,731	17,268	14,830	10,583	17,740			
令和3年度取組内容	新型コロナウイルスの影響で中止になった事業もあったが、指定管理者と十分に協議を行いながら、安全・安心で市民に良質なサービスを提供できるよう支援を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2			1
← ← → → ← ← → →	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				5	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				5	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				3	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				4	5	
評価点					33	34	

総合点	67	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	都祁地域内の企業やスポーツクラブ等との連携による利用促進や地域性を活かした施設管理運営を行うことができた。	施設管理運営上の課題等を随時報告することによって、お互い共通認識が図られ、問題解決につながった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域のスポーツ拠点の一つとして、地域性を活かした安全・安心な施設運営と、自主事業の強化に努めていただきたい。	財団独自の自主性と尊重と施設管理にかかわる適正な予算額の確保を強く求める。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	24	事業名	奈良市都祁体育館の運営						
部名	市民部	課名	都祁行政センター地域振興課						
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	②	生涯スポーツの推進	
	基本施策	2-06	スポーツ振興						
	施策	2-06-01	スポーツの振興						
相手方の名称	一般財団法人 奈良市総合財団			協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年）				
令和3年度事業費	予算額	6,350		決算(見込)額	6,350		(単位：千円)		
事業の概要・目的	健康で生きがいを持って暮らせるよう、生涯スポーツ宣言地域としてスポーツ・レクリエーションを通じて健康を維持・推進できるよう安全・安心なスポーツ施設の管理運営を行う。								
目標指標	指標名	利用者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	6,300	6,400	6,500	6,600	6,700	6,700
実績値	9,072	10,059	8,542	8,771	6,673	9,024			
令和3年度取組内容	新型コロナウイルスの影響で中止になった事業もあったが、指定管理者と十分に協議を行いながら、安全・安心で市民に良質なサービスを提供できるよう支援を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			5	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			3	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			3	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			4	5	
評価点					33	34

総合点	67	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	都祁地域内の企業やスポーツクラブ等との連携による利用促進や地域性を活かした施設管理運営を行うことができた。	施設管理運営上の課題等を随時報告することで、お互い共通認識が図られ、問題解決につながった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域のスポーツ拠点の一つとして、地域性を活かした安全・安心な施設運営と、自主事業の強化に努めていただきたい。	財団独自の自主性と尊重と施設管理にかかわる適正な予算額の確保を強く求める。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	25	事業名	地域福祉活動の支援事業						
部名	福祉部		課名	福祉政策課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	②	地域福祉活動の推進	
	基本施策	3-01	地域福祉				地域ごとに作成する地域福祉活動計画の策定を奈良市社会福祉協議会と協働して進めます。		
	施策	3-01-01	地域福祉の推進						
相手方の名称	地区社会福祉協議会			協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成16年度				
令和3年度事業費	予算額	0			決算(見込)額	0 (単位:千円)			
事業の概要・目的	地域住民の立場から地域特性にあった「地域福祉活動計画」を作成し、住民の福祉活動への理解や参加を促し、住みよい生活環境づくりを実現する。現在46の地区社会福祉協議会があり、住民自治に根ざした地域住民と行政の対等なパートナーシップのもと、連携・協働による福祉のまちづくりをめざす。								
目標指標	指標名	地域福祉活動計画の策定地区数							
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	20	26	32	38	46	46
実績値	20	25	31	34	40	41			
令和3年度取組内容	地区社協等の地域福祉に関する活動を行う方々が、共通の目標を持ち計画的に福祉のまちづくりに取組んでいくことができるよう、地域福祉活動計画を策定する。未策定地区については、市社協を通じて策定実施に向け積極的に働きかけをした。								
今後の方針	完了	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価					
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解	自主性尊重	自立化	目的共有	相互補完			公開	相互変革	期限設定		
できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	←	←	→	→		お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
						協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
						協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
						協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
					事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
					評価点	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	

総合点	80	総合評価	A				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市社協を通じて、市社協の地区担当者と地区社協等活動者が地域における福祉課題の解決に向け議論・協議を行い、一部の地域で地域福祉活動計画を作成することができた。	地域福祉活動計画を推進する上で、行政・市社協・地域住民(地区社協)が協働するために、市社協と当該課との協議や、地区社協会長会を通じた行政との協議の場で地域課題や行政施策等の情報共有・協議を図ることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	未策定の地域については、今後も地域の福祉課題解決に向けた議論・協議が必要と考える。	複雑・多様な今日的な地域課題を解決していくためには行政内の縦割りをなくし、組織横断的な協議の場の設定や制度の狭間の福祉課題に対応するためにも課題解決に向けた組織横断的な庁内の連携体制が必要である。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	26	事業名	奈良市月ヶ瀬福祉センターの運営						
部名	福祉部	課名	長寿福祉課						
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向 ③ 地域福祉推進体制の充実 地域福祉推進に係る各種団体との連携を充実します。			
	基本施策	3-01	地域福祉						
	施策	3-01-01	地域福祉の推進						
相手方の名称	(福) 奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度 (指定管理者制度導入年度)					
令和3年度事業費	予算額	29,000	決算(見込)額	29,000	(単位:千円)				
事業の概要・目的	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、市民の福祉の向上に資する。								
目標指標	指標名	利用者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	25,500	25,600	25,700	25,800	25,800	25,800
実績値	25,248	24,254	22,206	22,194	19,286	18,914			
令和3年度取組内容	新型コロナウイルスの感染予防に努め、市民が安心・安全に施設の利用ができるよう、奈良市社会福祉協議会と協力・連携を行いながら、施設運営を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2			1
← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				5	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				3	3	
評価点					36	36	

総合点	72	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	行政と奈良市社会福祉協議会と協働することにより、地域社会との結びつきが緊密になり、コロナ禍においても、良好な地域環境を維持できた。	行政と協働することで、単独では出来ないことへの課題解決ができ、良好な地域環境を維持することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	協働することにより密に連絡を取り合うことができ、コロナ禍においても、互いの組織で出来ることを確認しあい、補い合い地域の福祉課題を解決できるよう取り組んでいきたい。	地域福祉をより推進するために、各関係機関と地域組織のネットワーク作りを行なっていく必要がある。行政には各関係機関と協働するための協議の場作りに対する支援等を行なってほしい、より関係が密になるよう取り計らってほしい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	27	事業名	奈良市都祁福祉センターの運営						
部名	福祉部	課名	長寿福祉課						
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向 ③ 地域福祉推進体制の充実 地域福祉推進に係る各種団体との連携を充実します。			
	基本施策	3-01	地域福祉						
	施策	3-01-01	地域福祉の推進						
相手方の名称	(福) 奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度 (指定管理者制度導入年度)					
令和3年度事業費	予算額	32,500		決算(見込)額	32,500 (単位:千円)				
事業の概要・目的	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、市民の福祉の向上に資する。								
目標指標	指標名	利用者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	30,100	30,200	30,300	30,400	30,500	30,500
実績値	23,412	25,950	25,844	24,270	12,070	15,367			
令和3年度取組内容	新型コロナウイルスの感染予防に努め、市民が安心・安全に施設の利用が出来るよう、奈良市社会福祉協議会と協力・連携を行いながら、施設運営を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかつた	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			4	—
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			4	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			3	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			3	5	
評価点					37	39

総合点	76	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	行政と奈良市社会福祉協議会と協働することにより、地域社会との結びつきが緊密になり、コロナ禍においても、地域住民にとって安心安全な地域環境を維持できた。	行政と情報を共有し協働することで、利用者が安全に安心して当センターを利用することができ、福祉の増進に繋がった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	協働することにより密に連絡を取り合うことができ、コロナ禍においても、互いの組織で出来ることを確認しあい、補い合い地域の福祉課題の解決、住民からの要望に応じていきたい。	建設から既に23年が経過し、入浴施設のボイラー関係設備やエレベーター設備などを中心に全体的に設備の更新の時期を迎えており、現状を維持するための改修が必要となっている。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	28	事業名	奈良市子ども会議開催事業						
部名	子ども未来部		課名	子ども政策課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	②	子育て中の親子の居場所づくり		
	基本施策	3-02	子育て			子育てに関する情報について広く周知し、子育て世代が奈良市に住みたい、住み続けたいと感じるまちづくりを目指します。			
	施策	3-02-01	子育て支援の推進						
相手方の名称	市民（原則10～17歳の子ども）		協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成27年度					
令和3年度事業費	予算額	905		決算(見込)額	521		(単位：千円)		
事業の概要・目的	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、市民の福祉の向上に資する。								
目標指標	指標名	奈良市子ども会議参加者の意見表明に対する満足度							
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	80	85	90	95	100	99
実績値	79.6	80.1	79.7	81.3	49.1	56.5			
令和3年度取組内容	令和3年度「奈良市子ども会議」では、会議テーマを「みんなどうしてる？withコロナの過ごし方」とし、子どもたち自身がコロナをきっかけに始めたことなどを共有して、コロナ禍における過ごし方について話し合いを行った。また、オンライン開催の特性を活かし、青森市とのオンライン交流会もあわせて実施した。オンラインでの開催は二度目であり、接続トラブル等もなかったため、アンケートの「話しやすかったか」という問いに対し「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は100%だった。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目			行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3			2
← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	—
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			4	—
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			4	—
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			3	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			3	—
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			4	—
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			4	—
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			4	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			5	—
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			4	—	
評価点					37	0

総合点	74	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	コロナ禍で変化した子どもたちの家庭での過ごし方や課題を子ども参加者から多数聴くことができた。	令和3年度の子ども会議参加者から意見をいただくことは困難なため、アンケート結果を添付します。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルスの影響により、令和3年度子ども会議で、当初想定していた令和2年度の提案内容を実現することができなかったが、子どもたち主体で提案を実現するために、子ども参加者に対し、子どもにやさしいまちづくりへの当事者意識を高められるよう今後も働きかけていく必要がある。	令和3年度の子ども会議参加者から意見をいただくことは困難なため、アンケート結果を添付します。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	29	事業名	子育て親子の集える場の提供						
部名	子ども未来部		課名	子ども育成課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	②	子育て中の親子の居場所づくり	
	基本施策	3-02	子育て				子育て親子の交流の促進や育児相談等ができる地域子育て支援拠点で、地域支援活動の取組を積極的に行い、事業の充実を図ります。		
	施策	3-02-01	子育て支援の推進						
相手方の名称	子育て支援団体(社会福祉法人、NPO法人等) 地区民生児童委員協議会・地区社会福祉協議会等			協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年または月1・2回			事業開始年度	平成5年度				
令和3年度事業費	予算額	115,741		決算(見込)額	107,551		(単位:千円)		
事業の概要・目的	子育て親子(おおむね0～3歳児とその親)を対象に、交流の場の提供と交流の促進、子育て等に関する相談及び援助の実施、地域の子育て関連情報の提供、子育て及び子育て支援に関する講習等の多様な子育て支援活動を実施する。								
目標指標	指標名	子育て中の親子の集える場の利用者数							
	単位	人 (年間延べ人数)	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	151,000	164,000	177,000	190,000	190,000	83,000
実績値	159,359	160,874	156,996	139,107	81,526	73,702			
令和3年度取組内容	子育て親子の集える場において、子育てに関する講座の実施や情報提供など多様な子育て支援活動を実施し、地域全体で子どもの育ち・親の育ちを支援した。また、地域子育て支援センターそらいろにおいて家庭訪問型の子育て支援や参加者中心型プログラム(BPプログラム)を行い、多様化する子育て親子のニーズに寄り添うとともに、感染症流行により利用者が減少傾向にあるなか、各広場で妊婦向け見学会やオンラインを用いた講座を開催する等、地域子育て支援拠点と利用者をつなげるための支援を実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ← できた 少しかつた どちらとも書かない → できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	5
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			39	40

総合点	79	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	感染症予防に配慮しつつ、各々の広場が独自性を活かしながら講座の実施や利用者の相談支援、地域との連携を行った。 子育て支援団体、地区社会福祉協議会及び地区民生児童委員協議会についても、地域住民と関わりながら子育て親子の居場所作りや地域の情報を提供する等の支援を行うことができた。	・アイデアや助言をもらうことや相談することによって、事業を少しずつ前に進めることができた。 ・他の広場と交流することが出来、事業の見直しや発展ができた。 ・広報を市のSNSで行うことで活動が広がった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	感染症の流行により、子育てに関するニーズは日々変化しており、相談内容や必要な支援も多様化している。各広場や団体に対しては、積極的な研修への参加や、親子の育ちや学びを主軸とした講習の実施に期待する。	・今後も、他機関との連携作りのバックアップをお願いしたい。 ・行政から求められているレベルが高いと感じることがある。 ・スキルアップのための研修をしてほしい。 ・今後も、率直な意見交換を求める。 ・会議や研修の場で、他の広場とつながりを持つ機会を求めている。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	30	事業名	子育て支援アドバイザー						
部名	子ども未来部		課名	子ども育成課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 子育て親子にとって身近な場所で、子育てに関する相談や情報提供を行うとともに、関係機関と連携し、子育て支援の機能強化を図ります。				
	基本施策	3-02	子育て						
	施策	3-02-01	子育て支援の推進						
相手方の名称	個人ボランティア及び子育て支援団体		協働事業の実施手法	委託					
実施の時期	随時		事業開始年度	平成18年度					
令和3年度事業費	予算額	1,000		決算(見込)額	1,000 (単位:千円)				
事業の概要・目的	<p>地域の子育て経験豊かな市民を「子育て支援アドバイザー」として登録し、子育て親子が集まる場所に派遣し、子育てに関する相談、助言、情報提供を行い、親の育児の負担感や不安感を軽減する。また、絵本の読み聞かせ、手遊び、親子体操等、子育て支援アドバイザーができる範囲で支援を行う。</p> <p>なお、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、子育て支援の経験豊富なスタッフが在籍する地域子育て支援拠点事業の実施団体に、事業を委託している。</p>								
目標指標	指標名	子育て支援アドバイザーの派遣回数							
	単位	回数	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	500	500	500	500	500	500
実績値	552	537	500	487	190	227			
令和3年度取組内容	<p>新型コロナウイルス感染症流行の影響により、子育て広場や子育てサークルの活動が制限される中で、アドバイザーの派遣回数も減少傾向にあるものの、アドバイザーの活動内容に応じて、依頼者のニーズに沿った派遣を行うとともに、新規アドバイザーの養成、既存のアドバイザーに対するフォローアップを行った。</p>								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2			1
← ← → → ↓ ↓ ↑ ↑ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				5	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				4	4	
評価点					41	43	

総合点	84	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	子育て支援アドバイザーが、子育て広場や子育てサークルなどに出向き、講師や見守り等を行うことによって、子育て親子の育ちや孤立感解消、育児不安軽減の一助となった。	養成講座の実施にあたり、行政の立場から参加していただいていた連携ができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣回数が目標値を下回る状況が続いている。今後は、派遣回数の増加に向けて、子育て広場等への利用促進や周知方法の工夫が必要である。	新規登録者が増える中、活動の場が広がらないため、今後どのように活動の場を増やして行くのが良いかを一緒に考えていただきたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	31	事業名	ファミリー・サポート・センター事業						
部名	子ども未来部		課名	子ども育成課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向				
	基本施策	3-02	子育て						
	施策	3-02-01	子育て支援の推進						
			③	子どもの預り					
			多様化する家庭環境に対応するため、保護者が一時的に子どもの養育が困難になった場合、安心して子どもを預けることができる子育て支援サービスの充実に努めます。						
相手方の名称	個人ボランティア及び市内で活動する法人		協働事業の実施手法	委託					
実施の時期	随時		事業開始年度	平成16年度					
令和3年度事業費	予算額	14,157		決算(見込)額	11,972 (単位:千円)				
事業の概要・目的	「育児の援助を受けたい人」と「育児の援助を行いたい人」が依頼・援助・両方のいずれかの会員として登録し、児童の放課後の預かりや保育所等の送迎等で育児の援助が必要となったときに、会員相互の援助活動を行っている。 なお、事業の運営については、事務の効率化及び事業内容の充実に努めるため、市内で活動する法人に委託している。								
目標指標	指標名	ファミリー・サポート・センターの相互援助活動件数							
	単位	件	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	3,800
実績値	6,695	6,682	7,288	5,762	4,300	4,812			
令和3年度取組内容	会員間での相互援助活動に加え、妊娠中や出産後の家庭にホームヘルパーを派遣し、家事や育児の援助を行った。 また、多子世帯、多胎児世帯及びひとり親家庭等が事業を利用した場合に利用料の一部を助成し、あわせて、新型コロナウイルス感染症により小学校等が臨時休業となった場合の利用料助成も行った。 加えて、地域子育て支援拠点と連携し講座を行う等、会員の増加に努めた。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1		
← ← → → できた 少しできた どちらとも書かない できなかつた	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				4	4	
	評価点					38	40

総合点	78	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域子育て支援拠点と連携し講座を開催し、本事業についての周知の機会を得られたことは、新たな取り組みとして効果を得られた。 また、エンゼルサポート事業については、前年度と比較し円滑に支援を行うことができていた。	エンゼルサポートを利用している方から、支援できる内容を細かく聞かれる事が多く、その都度確認をし共有することで、多様な内容に対応できるようになった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	依頼会員数に比べ援助会員数が少ないことは、本事業の最も重要な課題である。援助会員の登録者増加に向けて、様々な地域での講習会の実施やさらなる周知の取り組みが必要である。	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、比較的多くの方が集まるスキルアップ講座や講習会などの人数制限をどの程度(はぐくみセンター内の基準合わせる等)にすれば良いのかの判断がとても難しかったと感じている。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	32	事業名	視覚障害者向け広報等発行事業						
部名	福祉部		課名	障がい福祉課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	② 障がい者の社会参加と自立支援		
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉				障がい者があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした啓発、広報等の充実を図るとともに、スポーツ・文化活動の振興を図ります。		
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実						
相手方の名称	ボランティア団体			協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	通年			事業開始年度	昭和57年度				
令和3年度事業費	予算額	729			決算(見込)額	2,096			(単位：千円)
事業の概要・目的	視覚障害者の内、希望者にしみんだよりなどの広報の点字版や音声版を製作し配布する。								
目標指標	指標名	活動の育成							
	単位	ボラン ティアの 人数	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	60	60	60	60	60	60
実績値	60	60	60	60	60	41			
令和3年度取組内容	市は点訳ボランティア及び音訳ボランティアに総合福祉センターの一室と点字用紙や録音用CD、製作用機材を提供し、ボランティアは市の広報誌等の点字版、音声版を製作、希望する視覚障害者に配布した。 また、障害者の地域生活を支援するボランティアを育成した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度 事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の 評価	協働相手の 評価	
	5	4	3	2	1					
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							5	—
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							5	—
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							5	—
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							—	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							4	—
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							—	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							4	—
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							5	—
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							4	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							4	—
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							5	—	
評価点								41	0	

総合点	82	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市の広報誌等の点字版・音声版を製作し、希望する視覚障害者に配布することによって行政からの情報を伝えることができた。	希望する視覚障害者に、健常者と同様の市政情報を伝えることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	様々な要因によりボランティアも減少する中、積極的に活動頂き、双方の特性を活かした協働事業を行っている。今後も課題等について共有し、解決することで障害者福祉を推進していきたい。	今までに協働した部署だけではなく、より多くの課において当団体の事業内容を知って頂き、積極的に連携していきたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	33	事業名	奈良市総合福祉センターの運営							
部名	福祉部		課名	障がい福祉課						
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	②	障がい者の社会参加と自立支援		
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉				障がい者があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした啓発、広報等の充実を図るとともに、スポーツ・文化活動の振興を図ります。			
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実							
相手方の名称	(社福) 奈良市社会福祉協議会			協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年			事業開始年度	平成22年度（指定管理者制度導入年度）					
令和3年度事業費	予算額	142,021			決算(見込)額	142,247		(単位：千円)		
事業の概要・目的	障害者のための施策その他社会福祉施策の総合的な推進及び社会福祉活動の育成を図り、もって市民の福祉の増進に資するために設置された総合福祉センターを運営する。									
目標指標	指標名	施設の利用者数								
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000	
実績値	84,859	90,945	89,456	75,880	19,262	35,534				
令和3年度取組内容	障害者福祉及び市民の福祉活動の振興を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、奈良市社会福祉協議会を指定管理者として総合福祉センターの施設運営を行った。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2	1					
← ← → → ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							5	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							5	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							4	4	
評価点								41	41	

総合点	82	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	指定管理者のノウハウを生かすとともに適宜情報共有し、協働して施設運営することで市民等の福祉活動の振興及び福祉の向上に資することができた。また、市の感染状況に応じて随時必要な対応ができた。	令和3年度においては新型コロナウイルス感染拡大防止の対応の為に調整が多く、可能な限り市民サービスの低下にならないよう協働した。結果、利用者の感染防止とともに一定程度の協働事業の利用を得られた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルスの影響で社会情勢がますます変化の中で、今後も適宜、市の感染状況に応じて迅速かつ適切に対応及び連携を図っていく必要がある。また、効果的・効率的な施設運営を行うために協働相手と目的や問題意識等を共有する必要がある。	奈良市の感染対策の方針に合わせ貸館や講座に対し制限を行い、条件の変更も多かったため、利用者から各々の利用日での使用条件について確認されることが多かった。歌唱・飲食等の制限の解除の見通しが見えないため、利用そのものがいつまでもできないケースも増えつつある。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	34	事業名	奈良市子ども発達センターの運営						
部名	子ども未来部		課名	子育て相談課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ① 障がい者福祉サービスの充実 <small>発達の遅れや障がいのある子どもと保護者に対し、相談や療育を行うため、子ども発達センターの事業の充実を図るとともに、医療機関や教育機関などと協力して支援の充実に努めます。</small>				
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉						
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実						
相手方の名称	(社会福祉法人)宝山寺福祉事業団		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成23年度(指定管理制度導入年度)					
令和3年度事業費	予算額	26,809		決算(見込)額	22,632 (単位:千円)				
事業の概要・目的	奈良市子ども発達センターで児童発達支援を行う。								
目標指標	指標名	当該年度に児童発達支援を利用した幼児の実数							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	60	60	60	60	60	60
実績値	48	55	48	49	45	44			
令和3年度取組内容	<発達支援> 児童発達支援 <地域支援> ①幼稚園等への訪問による指導 ②自主事業(親子教室)								
今後の方針	廃止	拡大、縮小、廃止の理由	指定管理期間満了						



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → ↓ ↓ ↑ ↑ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			5	5
	自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			5	5
		(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				
	目的共有	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			5	5
		協働相手と目的を共有することができましたか。				
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			5	5	
評価点					43	43

総合点	86	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	「相談支援」と「発達支援」を一連の流れとして重層的に実施できたことにより市民(保護者)の不安の軽減を図った。	連携を図ることにより、児童・保護者のニーズに適切に対応することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	強みや得意を含め互いの専門性を理解しあい発達支援に関する協働体制を考えることができた。	お互いの専門性を理解することにより、協働体制の理解を深めることができた。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	35	事業名	認知症サポーター養成講座						
部名	福祉部		課名	福祉政策課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ② 高齢者福祉サービスの充実 認知症の人も介護者も住み慣れた地域で安心して生活できるよう、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと連携を図り、地域全体で認知症の人とその家族を支えるネットワークを構築し、総合的かつ継続的な支援を推進します。				
	基本施策	3-04	高齢者福祉						
	施策	3-04-01	高齢者福祉の充実						
相手方の名称	地域包括支援センター職員を含むキャラバンメイト		協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度					
令和3年度事業費	予算額	184		決算(見込)額	20 (単位:千円)				
事業の概要・目的	国の認知症サポーター100万人キャラバン事業に基づき、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する認知症サポーターの養成や、その養成のための講師となるキャラバン・メイトの活動を支援する。								
目標指標	指標名	認知症サポーターを5ヶ年で約12,000名を養成予定、その後継続して実施							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	14,200	16,500	18,900	23,100	26,000	28,000
実績値	14,037	17,908	20,807	25,425	27,112	28,886			
令和3年度取組内容	認知症サポーターの更なる養成を行うため、オンライン開催の導入や、公民館での開催など、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと協働し取り組む。また、認知症の人やその家族などが集う場であるオレンジカフェ(認知症カフェ)運営者との協働も含め、養成講座受講後もボランティアとして活躍できる場を提供できるよう支援した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			4	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			5	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			4	4	
評価点					40	40

総合点	80	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	認知症サポーター養成講座開催を通じて、開催先となる各種団体や受講者に対し、認知症の人に優しいまちづくりのための認知症への理解を深める等、普及・啓発を図ることができた。	行政との協働により、市民・団体・学校などへの普及啓発が推進できた。認知症の理解を深めることだけが目的ではなく、「認知症の人を含むすべての人に優しいまち」をめざして、「まちづくり」をみんなで一緒に考えることができる講座ができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	認知症サポーター養成講座開催の要望が多い地域では、講師役となる地域包括支援センターのキャラバンメイトの負担が大きくなってきている。キャラバンメイトにはなっているが、活動に至っていない人の中で、意欲のあるキャラバンメイトを発掘し、活動へと結びつける支援が必要。	認知症への関心が高まっており、多様な開催場所・日時・対象の講座開催が求められている。キャラバンメイトへの継続的フォローアップが必要である。認知症のことを自分ごととしてとらえ各地域にあわせてまちづくりがすすむように、地域住民や行政職員のキャラバンメイトも増えることが望ましい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	36	事業名	老人福祉センターの運営							
部名	福祉部		課名	長寿福祉課						
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	③	高齢者福祉施設の整備		
	基本施策	3-04	高齢者福祉				老人福祉センターにおける高齢者の各種相談、健康の増進・介護予防の推進、生きがいづくりと社会参加を推進します。			
	施策	3-04-01	高齢者福祉の充実							
相手方の名称	(福) 奈良市社会福祉協議会			協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年			事業開始年度	平成20年度					
令和3年度事業費	予算額	129,000		決算(見込)額	128,666	(単位:千円)				
事業の概要・目的	高齢者の心身の健康保持及び増進を図るとともに、地域における交流の場として便宜を供与することによって生きがいづくりに寄与し、もって高齢者の福祉に資するため、東・西・南・北4箇所の老人福祉センターを運営する。									
目標指標	指標名	利用者数の増								
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	192,000	194,000	196,000	198,000	200,000	200,000	
実績値	190,319	182,883	185,302	147,583	38,074	38,188				
令和3年度取組内容	新型コロナウイルスの影響による施設の休館、一部利用制限等が令和2年度より続いているため、協働の相手方である奈良市社会福祉協議会と連携し、感染者数等の現状に合わせ可能な限り設備の利用の再開ができるよう方針を定めて対応した。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価						協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価												
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解	自主性尊重	自立化			目的共有	相互補完	公開	相互変革	期限設定							
できた 少しか どちらとも 思えない あまりで きなかつ た できな かつた	←	←	→	→		お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4	5	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5		
						お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4	4	5	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5		
						(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	5	3	5	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5		
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	5	3	5	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
						(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	5	4	5	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	5	4	5	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
						協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4	5	5	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4	5	5	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
					事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
						評価点	38	40															

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	新型コロナウイルスの影響により通常の施設運営ができなかったため、指定管理者と緊密に連携をとり可能な限り施設を稼働させることができた。連携の結果スマホ相談や教室等施設の利用制限下にあっても新規事業の実施も実現した。	コロナ禍による施設利用等の制限が続く中、高齢者が安全で安心して利用できるような安全対策を強化し、行政や関係機関との連携や協働により施設運営を行った。特にスマホ相談や教室等を協働にて積極的に取り組んだことは高齢者の情報取得等に大きな効果があった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルスの影響が長期化することを見据え、引き続き指定管理者との協働を推進し、新規事業の実施や休止事業を少しでも再開できないか検討することが必要である。	高齢者をはじめ多様化するニーズへの対応と地域の拠点として施設毎の地域性や特性を生かし、協働・連携による更なる推進と充実が期待される。高齢者が安全で安心して利用できる施設運営ができるよう経年劣化等による修繕等の施設整備に係る予算確保は大きな課題である。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	37	事業名	奈良市立都祁診療所・月ヶ瀬診療所の運営						
部名	健康医療部		課名	医療政策課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ① 医療体制の充実 東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。				
	基本施策	3-05	医療						
	施策	3-05-01	医療の充実						
相手方の名称	公益社団法人 地域医療振興協会		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度（指定管理者制度導入年度）					
令和3年度事業費	予算額	39,800		決算(見込)額	41,320 (単位：千円)				
事業の概要・目的	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス（診療、健康診断、健康相談、予防接種等）を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 （※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。）								
目標指標	指標名	診療所利用者数							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			実績値	18,188	17,467	16,871	16,630	17,333	23,836
令和3年度取組内容	指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2			1
← 5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 → できた 少しできた どちらとも書えない できなかつた	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				4	4	
評価点					42	42	

総合点	84	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働の相手方である協会（地域医療振興協会）の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映させることができた。また、協会は市立奈良病院の指定管理者でもあるため、市立奈良病院との連携を図ることができた。	奈良市への事業計画及び決算書の提出、毎月の患者数報告により診療所の現状と問題点を共有する事ができた。また、運営に関しては、協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、安定した運営を行う事が出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活かし、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への貢献につなげていく。	施設の経年劣化が著しく、奈良市と協議しながら、適切な補修等を行い患者の利便性と満足度向上に務めたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	38	事業名	奈良市立柳生診療所・田原診療所の運営						
部名	健康医療部		課名	医療政策課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ① 医療体制の充実 東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。				
	基本施策	3-05	医療						
	施策	3-05-01	医療の充実						
相手方の名称	公益社団法人 地域医療振興協会		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年度）					
令和3年度事業費	予算額	26,485		決算(見込)額	27,658 (単位：千円)				
事業の概要・目的	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス（診療、健康診断、健康相談、予防接種等）を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 （※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。）								
目標指標	指標名	診療所利用者数							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			実績値	6,549	6,120	6,112	5,943	5,312	6,320
令和3年度取組内容	指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → ↓ ↓ ↑ ↑ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかつた	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			4	4	
評価点					42	42

総合点	84	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働の相手方である協会（地域医療振興協会）の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映させることができた。また、協会は市立奈良病院の指定管理者でもあるため、市立奈良病院との連携を図ることができた。	奈良市への事業計画及び決算書の提出、毎月の患者数報告により診療所の現状と問題点を共有する事ができた。また、運営に関しては、協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、安定した運営を行う事が出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活かし、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への貢献につなげていく。	施設の経年劣化が著しく、奈良市と協議しながら、適切な補修等を行い患者の利便性と満足度向上に務めたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	39	事業名	奈良市立興東診療所の運営						
部名	健康医療部		課名	医療政策課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	① 医療体制の充実 東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。		
	基本施策	3-05	医療						
	施策	3-05-01	医療の充実						
相手方の名称	公益社団法人 地域医療振興協会			協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成28年度				
令和3年度事業費	予算額	10,000		決算(見込)額	10,330	(単位:千円)			
事業の概要・目的	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス（診療、健康診断、健康相談、予防接種等）を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 (※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)								
目標指標	指標名	診療所利用者数							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			実績値	322	427	494	534	565	611
令和3年度取組内容	指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2	1					
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							4	5	
評価点								42	43	

総合点	85	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働の相手方である協会（地域医療振興協会）の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映させることができた。また、協会は市立奈良病院の指定管理者でもあるため、市立奈良病院との連携を図ることができた。	奈良市への事業計画及び決算書の提出、毎月の患者数報告により診療所の現状と問題点を共有する事ができた。また、運営に関しては、協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、安定した運営を行う事ができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活かし、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への貢献につなげていく。	近隣住民や患者の方から頂いた意見を情報共有し、問題の解決に努めたいと考えている。また、自主性・独自性を発揮することにより地域医療の貢献につなげていく。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	40	事業名	20日ならウォーク						
部名	健康医療部		課名	健康増進課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ② 成人保健事業の推進 運動習慣づくりや食生活改善、禁煙等生活習慣病発症の予防を目的とした健康教育・健康相談など身近な保健サービスを提供し、一人ひとりの健康づくりを支援するほか、市民・民間・行政が一体となって健康づくりに取り組む体制づくりを行います。				
	基本施策	3-06	保健						
	施策	3-06-01	健康づくり推進						
相手方の名称	奈良市運動習慣づくり推進員協議会		協働事業の実施手法	委託					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度					
令和3年度事業費	予算額	240		決算(見込)額	240 (単位:千円)				
事業の概要・目的	奈良市運動習慣づくり推進員との協働で、毎月20日に市内をウォーキングする。効果的なウォーキング方法の啓発及び運動習慣の定着を支援し、生活習慣病予防につなげる。								
目標指標	指標名	奈良市運動習慣づくり推進員協議会主催実施回数							
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	11	11	11	11	11	7
実績値	10	10	8	8	0	0			
令和3年度取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により当日の開催には至らなかったが、屋外ウォーキング(年7回分)の実施に向けたコース下見や物品の準備等の開催に向けての準備を実施した。</li> <li>奈良市運動習慣づくり推進員スキルアップ研修会を実施した。</li> <li>奈良市運動習慣づくり推進員協議会と活動計画や評価について検討会議を実施した。</li> </ul>								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	対等性	相互理解	自主性尊重	自立化		
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ← できた ← 少しかつた → どちらとも書えない → できなかった	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	3
	5	5	5	4	5	5
	5	5	5	5	5	2
	5	5	5	5	5	5
	5	5	5	5	5	4
	5	5	5	5	5	3
	5	5	5	5	5	3
	評価点				44	34

総合点	78	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	屋外ウォーキングは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となったが、奈良市運動習慣づくり推進員と新型コロナウイルス感染症の対策を講じ安全に実施するための活動計画について検討することができた。	本年度も新型コロナ感染防止のため、本番のウォーキングは一度も開催できなかったが、準備のための話し合いを重ね参加者募集、受付、ウォーキング体制等を会員と行政でシミュレーションし本番準備を行う過程でお互いの立場と特性を理解し役割分担することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度の協議会の活動が減少している。特に令和元年度に入会した10期生の活躍の場が少なく、今後、推進員として活動できる体制づくりとスキルアップが必要である。また、会員が減少しているため、令和4年度には11期生を養成し、会員を増やす必要がある。	①当該事業が行政主導か市民主導か又は共催か、どの領域に属するのが分かりにくかった。 ②組織として事務局(場所、専従要員)を持っていない団体なので事務的業務が行政依存になりがちで自立化ができていくことが課題である。行政には今まで以上の人的、物的、財政的支援をお願いしたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	組織としての事務局がないため奈良市が受付業務等を担っているが、それ以外の様々な場面で主体性を持って活動していただいている。新型コロナウイルス感染症の感染予防対策等で市との協議の必要性が増えたうえ、事業実施に至らなかった為、取り組みとしての成果を得られなかったことが要因である。今後は、事業の実施を通して、会員一人ひとりのスキルアップを行いながら、行政と協議会のより良い関係を構築する。
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	41	事業名	奈良市総合医療検査センターの運営						
部名	健康医療部		課名	医療政策課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ① 医療体制の充実 東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。				
	基本施策	3-06	保健福祉						
	施策	3-06-01	健康づくりの推進						
相手方の名称	一般社団法人 奈良市医師会		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成28年度（当該指定管理開始年度）					
令和3年度事業費	予算額	72,884		決算(見込)額	57,236（単位：千円）				
事業の概要・目的	市民の日常の健康増進、疾病の予防及び発見、リハビリテーションまでの包括的な保健医療サービスを効果的に提供するため総合医療検査センターを設置し、人間ドック、がん検診及び定期健康診断等の検診事業並びに食事栄養指導、運動指導及び健康講座等の健康増進事業等を実施する。								
目標指標	指標名	センター利用件数							
	単位	件	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	127,500	128,000	140,000	140,000	140,000	140,000
実績値	131,806	135,528	137,239	140,302	125,601	133,257			
令和3年度取組内容	市民の健康の保持・増進、疾病の早期発見及び予防の推進のため、検診受診者の拡大を図るとともに検査事業においては精度管理に努めた。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1			
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				5	5	
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				5	5	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				5	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				5		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				5	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				5		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				5	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				5	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				5	5	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				5	5	
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				5	5		
評価点						45	45	

総合点	90	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市医師会が総合医療検査センターの管理運営を行うことにより、検診検査を専門とする施設の特性を活かし、市民の健康の保持増進を図ることができた。また、新型コロナウイルスにかかる検体採取・検査等の事業により、感染者の早期発見にも繋がった。	施設の運営にあたり指定管理者として協働することで、市民の健康の保持増進という目的を共有することができ、各事業の取り組みにおいて協力体制が築けた。また、令和3年度は新型コロナウイルスの検体採取や遺伝子検査を積極的に実施し、感染者の早期発見に寄与する事ができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	経年による施設の維持補修が必要となっており、予算措置に苦慮している。	施設に関して、日々の即効性を必要とする小規模補修は、業務に支障を来すので都度改修を行っている。大規模補修については、令和3年度は空調設備や防災設備等の老朽化に伴い予算措置を講じて頂いた。しかし、今後も建物や建物付属設備等の大規模補修は、施設の老朽化に伴い増加しますので、引き続き予算措置をお願いしたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	42	事業名	奈良市食育ネット						
部名	観光経済部			課名	農政課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向			
	基本施策	3-06	保健福祉						
	施策	3-06-01	健康づくりの推進						
相手方の名称	奈良市食育ネット			協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成30年5月（旧事業27年度）				
令和3年度事業費	予算額	90			決算(見込)額	68			(単位：千円)
事業の概要・目的	食育基本法及び第3次奈良市食育推進計画（平成31年3月策定）に基づき、食に関する団体（ボランティア、大学、食関連事業者、飲食店等）と協働のもと食育を推進する。農政課は事務局を担い、参加団体を市ホームページに掲載する。年に1回協働で食育イベントを開催する。（組織改正により、平成31年4月から事務局が医療政策課から農政課になった）								
目標指標	指標名	奈良市食育ネット参加団体数							
	単位	団体数	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	35	45	50	60	65	65
実績値	43	48	59	60	61	60			
令和3年度取組内容	食育月間でのパネル展示において団体の取組を紹介した。また、食育関連事業に関する情報提供、相互協力に関わる調整を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1				
← ← → → ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかつた	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					5	5	
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					5	5	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					5	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					4	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					5	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					5	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					5	5	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					4	5	
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					5	5		
評価点							43	44	

総合点	87	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	各団体で積極的な活動が行われており、その様子を広報紙等を通して紹介することで、市民の関心を得ることができた。	様々な立場の関係者が連携・協働するかたちで組織運営が進められている。行政が適切なアドバイスと事務局業務を担い、食育ネットの主体的活動を支援してくれることにより、円滑な運営につながっている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	団体からの情報発信や連携の相談等、積極的に食育ネットを活用して頂きたい。また、より効果的な活動ができるよう、運営方法等を検討したい。	奈良市食育推進計画の目標達成に向け、今後も引き続き多様な関係者による連携・協働の取り組みが必要である。今後とも支援をお願いしたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	43	事業名	森林保全・緑化事業						
部名	観光経済部		課名	農政課					
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済			展開方向	⑤	林業の振興	
	基本施策	6-03	農林業				森林環境の保全及び森林を守り育てる意識を醸成します。		
	施策	6-03-01	農林業の振興						
相手方の名称	奈良市巨樹保存等審議会委員			協働事業の実施手法	審議会・委員会等				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成15年度				
令和3年度事業費	予算額	196		決算(見込)額	0 (単位:千円)				
事業の概要・目的	森林を保護・育成し森林の保全及び緑化推進の市民意識の向上を図る。また、奈良市巨樹の保存及び緑化の推進に関する条例に基づき、巨樹の保存等に努める。								
目標指標	指標名	保存樹指定本数							
	単位	本	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	26	26	27	27	28	28
実績値	25	25	25	24	24	24			
令和3年度取組内容	巨樹等の指定は平成15年度から開始したが、巨樹等の保存及び緑化の推進は一定の効果が表れており、近年では、新たな指定はなく、今後の新たな指定については申請に基づき、指定に向けて審議を行う。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2	1			
← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					—	—
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					—	—
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					—	—
	自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					—	—
		(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					—	—
	目的共有	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					—	—
	相互補完	協働相手と目的を共有することができましたか。					—	—
	公開	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					—	—
	相互変革	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					—	—
	期限設定	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					—	—
	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					—	—	
	評価点					0	0	

総合点	0	総合評価	-				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	新たな巨樹指定の申請がなかったことから、当該審議会の開催がなかった。	
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	44	事業名	自主防災防犯組織活動						
部名	危機管理監		課名	危機管理課					
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	② 防災意識の高揚		
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）				自主防災組織の結成率向上、子育て世代の加入促進など組織強化への支援、防災士の育成支援等、組織体制の充実・活性化に努め、防災意識の高揚を図ります。		
	施策	4-01-01	総合的な危機管理						
相手方の名称	自主防災防犯組織			協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成18年度				
令和3年度事業費	予算額	21,715			決算(見込)額	17,820			(単位：千円)
事業の概要・目的	各地区の防災防犯力の向上を図り、安全安心なまちづくりを推進するため、自主防災防犯組織が行う防災訓練、防犯活動等の各種防災防犯活動を支援する。この際、各地区の自主防災防犯組織の均一的な活性化に留意しつつ、自主防災防犯協議会と合同で防災訓練等を実施するとともに、防災士育成、資機材購入等の防災防犯活動に対して、活動交付金を交付し、自助・共助・公助連携の向上を図る。								
目標指標	指標名	各地区自治連合会等を基本とした自主防災防犯組織の結成率							
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	98	100	100	100	100	100
実績値	100	100	100	100	100	100			
令和3年度取組内容	自主防災防犯組織に自主防災防犯組織活動交付金を交付し、防災訓練、研修会の支援を行う。また、自主防災防犯組織全体の防災防犯力のレベルアップと継続した取組が行われるよう、組織内の人材育成研修を実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価			
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解	自主性尊重	自立化			目的共有	相互補完	公開
← ← → → ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった						お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5						
						お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5						
						(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4							
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			4					
						(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5							
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				4				
						協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5						
						お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5						
						協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4						
						協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5						
					事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5							
					評価点		37							42

総合点	79	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	安全安心なまちづくりには、行政主導での事業のみならず、地域が自主的に防災・防犯活動に取り組むことが重要であることの相互理解が深まった。	自主防災防犯組織の意識・協力の程度が増加した。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	防災対策に関する課題を共有し、課題解決に向けた取組を推進していきたい。	防犯に関する取り組み・意識が弱い点、その点が課題である。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	45	事業名	独り暮らし高齢者世帯防火訪問						
部名	消防局		課名	予防課					
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 ② 防火、防災における市民等との協働の推進 女性防災クラブとの協働による一般家庭防火訪問（住宅用火災警報器の普及促進と出火防止対策）の実施等防火対策の推進と、自力避難困難者収容施設への査察の強化を図ります。				
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）						
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実						
相手方の名称	奈良市女性防災クラブ		協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	通年		事業開始年度	昭和46年度					
令和3年度事業費	予算額	10		決算(見込)額	8 (単位：千円)				
事業の概要・目的	火災時に死傷者の発生する割合の高い高齢者世帯に対する防火啓発により住宅火災の防止、被害の減少を図ることを目的とする。 そのために、70歳以上の独り暮らし高齢者世帯を対象に防火訪問を実施する。								
目標指標	指標名	女性防災クラブ員一人当たり訪問回数							
	単位	一人当たり訪問回数	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	1.3	1.7	1.8	1.9	2.3	2.3
			実績値	1.6	1.8	2.3	2.6	2.1	2.9
令和3年度取組内容	各地区女性防災クラブ員が、それぞれの地域の独り暮らし高齢者世帯を訪問し、個々の実情に応じた防火啓発を実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1		
← できた	← 少しかつた	→ どちらとも書えない	→ どちらとも書えない	→ どちらとも書えない	→ できなかった		
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					5	5
自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					4	5
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					4	4
自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					4	5
	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					4	4
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					5	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					4	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					5	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					4	4
	評価点					41	41

総合点	82
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	令和3年度は全クラブで実施することができ、目標値を達成した。地道なクラブ員の活動が住民にも浸透し地域特性に応じた防火・防災啓発が推進できていると考える。	昨年度は新型コロナウイルス感染対策のため、原則ポスティングのみの活動となったが、今年度は対面訪問できたクラブも多く防火防災にもっとも重要な地域住民とのコミュニケーションの向上が図れた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	クラブ数及び総クラブ員数が減少する中、新規クラブ結成の呼びかけや研修会等を通じたクラブ員の育成指導が課題である。	本事業については、民生児童委員の方々との連携が重要であり、今後も円滑な関係を構築していく必要がある。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	46	事業名	応急手当普及啓発活動事業						
部名	消防局		課名	救急課					
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 ② 防火・防災における市民等との協働の推進 市民を対象とした応急手当普及啓発活動を推進します				
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全（防災・消防・防犯・交通安全）						
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実						
相手方の名称	市内在住・在勤者		協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成6年度					
令和3年度事業費	予算額	659		決算(見込)額	108 (単位：千円)				
事業の概要・目的	応急手当講習会を受講してもらうことにより、応急手当の必要性を認識していただき、病院前救護の充実を図る。								
目標指標	指標名	市民の4人に1人が応急手当講習修了者となること							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	3,360	3,360	3,593	5,053	5,053	5,053
実績値	2,521	2,103	2,161	2,252	264	496			
令和3年度取組内容	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら講習会を計画するにあたり、防災センターでの講習会実施回数を増やし、各種事業所・各種団体及び自治会等に対し受講を推進をした。また、講習会の広報活動を継続して実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → できた 少しできた どちらとも言いえない できなかつた	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			5	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			4	4
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4	4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			4	4	
評価点					38	36

総合点	74	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	応急手当の必要性について理解が得られた。	救命のために行う応急手当の必要性及び重要性が理解できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	コロナ禍での講習会開催により、一開催あたりの受講者数の制限をしたが開催数を増やすなどの対策を講じた。定期的な受講をすることにより、自信を持って行動ができるようになるため、定期的な受講が必要である。	時間経過とともに、知識・技能が低下する。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	47	事業名	放置自転車対策の推進						
部名	環境部		課名	環境政策課					
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	③	放置自転車対策	
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）				駅周辺の放置自転車の撤去を強化することにより、道路交通の安全と円滑化を図ります。		
	施策	4-01-03	交通安全の確保						
相手方の名称	地元商業施設			協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成23年度				
令和3年度事業費	予算額	9,683		決算(見込)額	8,981	(単位：千円)			
事業の概要・目的	地元商業施設の方々の協力を得て、自転車等放置禁止区域内における放置自転車の発生を防ぐ。								
目標指標	指標名	市内放置禁止区域内の放置自転車等の減							
	単位	台	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	2,080	2,060	2,040	2,020	2,000	2,000
実績値	1,876	1,653	1,173	900	396	351			
令和3年度取組内容	地元商業施設に放置自転車等の情報を提供し、協力して放置自転車等の移動をおこなうとともに自転車等放置禁止区域の周知啓発により放置自転車の発生を防ぐよう努めた。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1			
← ← → → ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					4	—
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					4	—
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					4	—
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					4	—
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					4	—
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					4	—
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					4	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					4	—
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					4	—	
評価点						36	0	

総合点	72	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	情報共有、啓発、移動等により放置自転車は減少傾向にある。	<協働相手の評価が得られない理由> 以前までは、地元商業施設の方々と放置自転車防止に向けた活動を行っていたが、現在では市の職員のみで業務にあたっているため、評価を得ることができない。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	放置自転車の更なる減少を目指し、情報共有を継続していく。	

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	48	事業名	奈良市自転車駐車場の運営							
部名	環境部			課名	環境政策課					
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	③	放置自転車対策		
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）				自転車利用者の利便性を高め、道路交通の安全と円滑化を図るため、民間活力を利用し、駅周辺に自転車駐車場を充実させます。			
	施策	4-01-03	交通安全の確保							
相手方の名称	事業者（ミディ総合管理株式会社）			協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年			事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年度）					
令和3年度事業費	予算額	70,515			決算（見込）額	70,070				（単位：千円）
事業の概要・目的	市内の駅周辺における自転車等の駐車秩序を確立することにより、街の美観を維持するとともに、自転車利用者の駐車の手便を図る。									
目標指標	指標名	自転車利用者の利便性を高め、道路交通の安全と円滑化を図る								
	単位	台	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	3,360	3,360	3,360	3,360	3,360	3,360	
実績値	3,360	3,360	3,360	3,360	3,360	3,360				
令和3年度取組内容	自転車駐車場の修繕や指定管理者と連絡調整を行いながら、施設のより良い運営に努めた。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価						協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価				
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解	自主性尊重	自立化	目的共有	相互補完	公開	相互変革	期限設定	評価点
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった						お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5	5	5	5	5	5	5	5
						協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5	5	5	5	5	5	5	5
						事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4	4	4	4	4	4	4	4
						評価点	42	44	44	44	44	44	44	44	44

総合点	86	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	施設利用者の意見の共有や施設管理状況等を連絡共有し、奈良市自転車駐車場の適切な運営を行うことができた。	奈良市自転車駐車場の円滑な運営とお客様からの信頼の向上
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	市民サービスの向上を目指し、利用者の声等の情報共有を継続すること	施設建造物の経年劣化について、定期的な点検作業が必要かと思われます。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	49	事業名	地域防犯活動推進事業							
部名	危機管理監			課名	危機管理課					
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	③	地域の防犯力の強化		
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）				防犯意識の普及及び防犯施策を推進することにより、犯罪や事故等のない明るく住みよい地域社会を推進する。			
	施策	4-01-04	防犯力の充実							
相手方の名称	生涯学習財団、自主防災防犯組織			協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	通年			事業開始年度	平成21年度					
令和3年度事業費	予算額	150			決算(見込)額	95				(単位：千円)
事業の概要・目的	奈良市安全安心まちづくり基本計画に基づき、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民が自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識を高めるため、自治会や自主防災防犯組織などの団体を対象とした防犯教室を実施する。また、令和2年度から、生涯学習財団と共催し、公民館で防犯教室を開催している。									
目標指標	指標名	防犯教室実施回数								
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	8	11	14	17	20	20	
実績値	8	12	23	36	13	8				
令和3年度取組内容	奈良市安全安心まちづくり基本計画に基づき、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民が自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識を高めるため、市民や自主防犯組織などの団体を対象とした防犯教室を実施した。令和3年度は新型コロナウイルスの影響で実施期間が4ヶ月程となった。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1								
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							4	3			
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							4	3			
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							4	3			
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							4				
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							4	3			
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							4				
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							4	3			
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							4	3			
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							3	3			
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							3	3			
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							4	3				
評価点											34	27	

総合点	61	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	防犯教室の内容に関して、お互いの分野の情報を共有することができた。	令和3年度は防犯教室の呼びかけをいただいた時期が例年より遅かったこともあり、開催実績がないため不明。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	お互いの意見をフィードバックする場を設けることができなかった。情報共の体制強化に努めたい。また、新型コロナウイルスの影響により防犯教室実施期間が短く、案内や通知を共有する期間を調整できなかった。	公民館の事業企画の時期と防犯教室の呼びかけをいただく時期がずれている。地域特性や最新の犯罪手口を交えた防犯教室を実施することで身近に潜む特殊詐欺等の実情を認識し、市民が自分事としてとらえるよい機会となっているので、今後は時期を合わせていきたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	50	事業名	奈良市地球温暖化対策地域協議会							
部名	環境部		課名	環境政策課						
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	② 地球温暖化対策の推進			
	基本施策	4-02	環境保全				奈良市地球温暖化対策地域協議会等を通じ、市民、事業者、行政等あらゆる主体が協働し、環境教育、エコバッグの普及等3Rの推進や公共交通機関の利用促進及び省エネを実施できる仕組みづくりなど温室効果ガスの排出量を削減し、地球温暖化対策の推進に取り組めます。			
	施策	4-02-01	環境にやさしい社会の構築							
相手方の名称	市民・NPO・事業者など			協働事業の実施手法	実行委員会・協議会					
実施の時期	通年			事業開始年度	平成21年度					
令和3年度事業費	予算額	628			決算(見込)額	594 (単位:千円)				
事業の概要・目的	市民(個人・団体)、NPO、事業者、学識経験者、行政などが対等な立場で和をもって協議を行い、パートナーシップにより地球温暖化対策等の活動を推進し、環境(エコロジー)も経済(エコノミー)も持続可能な社会をめざす。									
目標指標	指標名	環境行事実施回数								
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	20	23	25	27	30	30	
実績値	24	24	18	25	10	13				
令和3年度取組内容	温室効果ガス排出削減に向け、市民・市民団体・事業者等と協働し、市民への啓発活動や学校等への出前講座の実施など様々な分野で活動を展開した。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1					
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				5	5	5	5	
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				5	5	5	5	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				5	5	5	5	
	自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				5	5	5	5	
		(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				3	3	3	3	
	目的共有	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				3	3	3	3	
		協働相手と目的を共有することができましたか。				5	5	5	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				3	3	3	3	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	4	4	4	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	4	4	4	
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				4	4	4	4		
評価点					38	38	38	38		

総合点	76	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	種々の立場の人間が、共通の目的を持って活動することにより、会員同士のネットワークの構築に寄与し、個々の取り組みにおいても協働ができています。	地球温暖化対策の市民啓発について、数年も続くコロナ禍のため、次第に環境イベントの開催が難しい状況になっているが、市内の学校・幼稚園等への出前講座などは、行政が関わってくれることで充実した取組になっている。また、協議会での事務的な支援や活動での対外的な信頼は、協働を越える協力を行政から得ている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	各人が、関心のある分野に対してのみ活動を進めていく傾向があり、他の分野の活動で手助けが必要な場合に、協力しているメンバーが固定化されつつある。体制の見直しについて検討し、協議会の活性化を求めたい。	当協議会の普及啓発活動は、市民との触れ合いとつながりの場で効果を発揮するが、コロナ禍のためにふれあい機能が停止しているため、ウェブでのつながりを強化していることから、SNSを用いた協働のあり方を創り上げる必要があります。また、メンバーの高齢化が目に見えるようになったため、新たな市民が会員に参加してもらえる仕組みを設けてほしい。上記の評価点は、この理由によるものです。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	51	事業名	ECOキッズ! ならの子ども						
部名	環境部・教育部		課名	環境政策課・学校教育課					
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 子どもから大人までそれぞれの発達段階に応じた環境教育を推進することにより、一人ひとりが自発的に気づき、学び、行動する心を育成します。				
	基本施策	4-02	環境保全						
	施策	4-02-01	環境にやさしい社会の構築						
相手方の名称	市民・市民団体等		協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成25年度					
令和3年度事業費	予算額	1,192		決算(見込)額	942 (単位:千円)				
事業の概要・目的	次世代を担う子ども達に環境問題や省エネ・節電などライフスタイルに対する気づきを与え、環境保全を推進する人材を育成するため、市立全小学校3年生を対象に、地球温暖化防止や省エネなどの環境に関する出前授業を行う。								
目標指標	指標名	夏・冬休みに家庭で取り組むエコチャレンジを実施した割合							
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	100	100	100	100	100	100
実績値	92	89	80	92	95	91			
令和3年度取組内容	新型コロナウイルス感染症対策として、対面での出前授業だけでなく、新たにオンラインでの実施メニューを準備し、実施時の感染状況や学校の意向に応じた方法で環境講座を実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかつた	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			4	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			4	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			3	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			3	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			5	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			4	4	
評価点					37	42

総合点	79	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	教育現場に教員以外の講師を派遣することで、子ども達と地域の人々とのコミュニケーションが生まれるとともに教員への波及効果も期待され、環境保全に対する興味や意識の向上が期待される。	オンライン授業を導入する際に、講師団体向け説明会を実施いただいたので、講座内容改訂に注力することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	オンライン講座を導入することによりコロナ下においても授業の提供ができるようになったが、PCを通じての授業形態により、対面より「伝わりにくい」といった課題がある。講座内容改訂を更に検討したい。	新型コロナウイルス感染症の影響により導入したオンライン講座であるが、対面より「伝わりにくい」課題が見えてきたため、講座内容の改訂を進めていきたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	52	事業名	アダプトプログラム推進事業「さわやかクリーン奈良」							
部名	市民部		課名	地域づくり推進課						
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	①	環境美化活動の推進		
	基本施策	4-03	生活・環境衛生				アダプトプログラム推進事業を実施し、地域のボランティアによる道路、河川等の公共施設の美化活動を支援します。			
	施策	4-03-01	環境美化の推進							
相手方の名称	自治会・ボランティア団体・事業者等			協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	通年			事業開始年度	平成20年度					
令和3年度事業費	予算額	3,830			決算(見込)額	3,659			(単位:千円)	
事業の概要・目的	市民の方々による身近な道路、河川等の公共施設の美化活動を通して地域コミュニティの再生を図る。									
目標指標	指標名	活動団体の増								
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	64	66	83	85	87	92	
実績値	71	81	82	104	105	102				
令和3年度取組内容	ホームページやしみんだより、情報誌「りろば」を通して参加団体を募集し、市の支援として、報奨金10,000円、ごみの回収、90Lのごみ袋の提供、ボランティア活動保険への加入を行った。また、報奨金を希望しない団体は、ごみ袋45L及び90Lの支給、ごみの回収、ボランティア活動保険への加入を行った。活動に参加する等して集めた団体の声を基に、今後も手続き方法の改善や活動の推進・拡大を図っていく。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1				
← ← → → ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかつた	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					4	3	
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					5	3	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					5	3	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					4	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					5	4	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					5	4	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					4	2	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					4	3	
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					4	5		
評価点							40	32	

総合点	72	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市が活動支援を行い、地域の有志の団体が美化活動を行うことで、「自分たちのまちを自分たちの手できれいにしよう」という意識の広がりや地域でのつながりが生まれた。またコロナ禍での活動方法等を発信することで、安全に活動してもらうことができた。	別紙アンケート結果
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	各団体において清掃方法等が違うことから、一元的にすべての団体のニーズに沿うことが難しい。できるだけ団体の希望に沿える柔軟に対応していくことが必要。	別紙アンケート結果

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	アダプトプログラムは2人以上のグループで美化活動を行っていただく制度であり、必ずしも登録団体が積極的な情報発信を行っているわけではないが、市の発行する情報誌「りろば」において団体の活動状況を積極的に発信しているため、登録団体にもりろば配布に協力をいただくなど、情報発信を強化していきたい。
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	53	事業名	佐保川清掃							
部名	環境部		課名	まち美化推進課						
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	①	環境美化活動の推進		
	基本施策	4-03	生活・環境衛生				アダプトプログラム推進事業を実施し、地域のボランティアによる道路、河川等の公共施設の美化活動を支援します。			
	施策	4-03-01	環境美化の推進							
相手方の名称	佐保川清掃対策委員会			協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	春			事業開始年度	昭和34年度					
令和3年度事業費	予算額	0			決算(見込)額	0			(単位:千円)	
事業の概要・目的	地域住民の方々のボランティア活動により佐保川の美化活動を行う。									
目標指標	指標名	美化活動への参加人数								
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	1,500	1,500	1,500	1,550	1,550	1,550	
実績値	1,200	1,200	1,200	1,200	0	0				
令和3年度取組内容	新型コロナウイルス感染防止対策のため、実施を見合わせるようになった。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1		
← できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった → できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				—	—
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				—	—
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				—	—
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				—	—
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				—	—
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				—	—
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				—	—
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				—	—	
評価点					0	0	

総合点	0	総合評価					-
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	54	事業名	人と動物がともに暮らせるまちづくり事業							
部名	健康医療部			課名	保健衛生課					
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	②			人と動物がともに暮らせるまちづくり事業
	基本施策	4-03	生活・環境				狂犬病に対する認識や動物愛護の意識の高揚に努めるとともに動物の正しい飼い方を啓発し、人と動物が良きパートナーとして共に暮らせるまちづくりを推進する			
	施策	4-03-02	生活・環境環境衛生の向上と増進							
相手方の名称	自治会			協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	通年			事業開始年度	平成15年度					
令和3年度事業費	予算額	39			決算(見込)額	37			(単位:千円)	
事業の概要・目的	自治会を通じて動物の適切な飼い方に関するポスターを配布し掲示してもらうとともに、地域住民との意見交換を行い、良い意見を反映させていくことで、飼い主のマナー啓発に努める									
目標指標	指標名	ポスター配布枚数								
	単位	枚	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	800	800	800	800	800	800	
実績値	451	575	491	303	323	427				
令和3年度取組内容	動物の飼い方に関する苦情・相談を受け、その事案を整理しながら市の各自治会と連携し、動物の適切な飼い方についてのポスターを配布した。その結果、有効な取組については市全体に発信するなどし、人と動物がともに暮らせるまちづくりを推進する取組を自治会と連携して構築してきた。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価		
	5	4	3	2	1	相互理解	自主性尊重	自立化			目的共有	相互補完
← ← → → ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかつた	←	←	→	→		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4			
						相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4			
						自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	4			
							(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4			
						自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	4			
							(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4			
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5			
						相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4			
						公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4			
						相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4			
						期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	3			
						評価点				41	36	

総合点	77	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市と自治会がともに動物に関わる迷惑行為防止等の取組を行うことにより、動物の適正飼養に対する意識を高めるとともに、飼い主に対しマナー啓発を行うことで、人と動物がともに暮らせるまちづくりの推進を図ることができた。	継続してポスターを掲示することにより、動物に関する迷惑行為に対して一定程度の抑止効果があったと思われる。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	各自治会の動物の適正飼養に対する意識が高くなってきていると感じる。しかし、動物自体に対する意識に隔たりを感じるケースもあるので、根気よく協働し、ポスター掲示をきっかけとして地域住民への啓発を継続することを望む。	飼い主のマナー啓発には限りがあり、迷惑行為をする本人に直接注意できるわけではないため、迷惑行為を根絶することは難しい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	



協働事業										
No.	56	事業名	ごみ減量キャラバン							
部名	環境部		課名	廃棄物対策課						
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	①	ごみ減量・リサイクルの推進		
	基本施策	4-04	廃棄物処理				ごみの2次処理に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体と連携・協働した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を促します。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。			
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理							
相手方の名称	ごみ懇談会等			協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	通年			事業開始年度	平成24年度					
令和3年度事業費	予算額	73			決算(見込)額	10		(単位：千円)		
事業の概要・目的	啓発活動により、より多くの市民に、廃棄物の課題を認識していただき、ごみの減量及び3Rの促進に取り組んでいただく。									
目標指標	指標名	キャラバンの参加者数の増加								
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	600	600	600	600	600	600	
実績値	396	570	292	803	276	621				
令和3年度取組内容	市民団体「ごみ懇談会」と連携を取りながら、市内小学校の環境学習で、また公民館を使用して、市民団体に向けてごみの分別・減量や3Rの啓発活動を実施した。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2	1					
← ← → → ↓ ↓ ↑ ↑ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							4	4
	自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							4	4
		(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							4	3
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							3	3
評価点								40	39	

総合点	79	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	互いの長所を活かしつつ、また、不足している要素は補い合いながら実施することができたことで、協働することの重要性を再認識することができた。	コロナ対策をしながら少しずつ出前講座の依頼数が戻りました。出前講座で市民や小学生の皆さんは熱心に聞いてくださり、伝えることの大切さを実感しました。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	コロナ禍による影響で懇談会を思うように開催できず、個々に持っている情報を共有することができなかった。情報の共有化を徹底したい。	コロナ禍による影響で懇談会開催が思うようにできずメンバーへの最新情報の共有が不足してしまいました。メンバーが固定化し、講座の対応者が限られ市の担当者任せの場面もありました。担い手を増やす努力をしていきたいと思えます。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	57	事業名	陶磁器製食器類リユース・リサイクル事業							
部名	環境部		課名	廃棄物対策課						
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	①	ごみ減量・リサイクルの促進		
	基本施策	4-04	廃棄物処理				ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体等と連携・協働した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。			
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理							
相手方の名称	関西ワンディッシュエイド協会			協働事業の実施手法	委託					
実施の時期	通年			事業開始年度	平成27年度					
令和3年度事業費	予算額	2,381			決算(見込)額	100				(単位:千円)
事業の概要・目的	定期回収拠点(コープおしくま、コープ七条、はぐくみセンター)や奈良市の主催イベント等にて、家庭で不用になった陶磁器製食器類を持ち込んでいただき回収するとともに、持ち帰りたい食器があれば配布する「もったいない陶器市」を開催する。本事業を通じて、ごみの2R(発生抑制、再使用)を促進し、ごみに対する意識の高揚を図る。									
目標指標	指標名	陶磁器製食器のリユース率								
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	58	59	62	63	64	65	
実績値	61	61	61	65	60	0				
令和3年度取組内容	令和3年度における「もったいない陶器市」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、開催できなかった。今後の取組については、感染状況の推移を確認し、協働相手である関西ワンディッシュエイド協会と協議のうえで、イベントの開催を検討する。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1	評価点		
← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					—	—
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					—	—
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					—	—
	自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					—	—
		(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					—	—
	目的共有	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					—	—
	相互補完	協働相手と目的を共有することができましたか。					—	—
	公開	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					—	—
	相互変革	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					—	—
	期限設定	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					—	—
	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					—	—	
	評価点					0	0	

総合点	0	総合評価					-
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	



## 協働事業

No.	59	事業名	違反広告物を出さない街づくり推進団体						
部名	都市整備部		課名	都市計画課					
総合計画上の位置付け	章	5章	都市基盤			展開方向	④	協働による景観まちづくり	
	基本施策	5-02	景観				景観まちづくり市民組織の結成、育成を支援するとともに、各組織のネットワーク化を図ります。		
	施策	5-02-01	奈良らしい景観の形成						
相手方の名称	自治会・2名以上のボランティア団体			協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成16年度				
令和3年度事業費	予算額	168		決算(見込)額	51		(単位:千円)		
事業の概要・目的	古都奈良にふさわしい景観となるよう、道路などに掲出された違法な簡易広告物を市民の方々に除却していただき、その活動を通じて地域の景観を守る意識を高めていただく。								
目標指標	指標名	活動団体数の増加							
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	38	46	54	58	60	62
実績値	43	47	49	49	49	42			
令和3年度取組内容	市ホームページによる広報における活動団体の募集にとどまり、新型コロナウイルスの影響により、関係団体にも積極的な働きかけは出来なかった。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1		
← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				—	—
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				—	—
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				—	—
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				—	—
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				—	—
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				—	—
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				—	—
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				—	—	
評価点					0	0	

総合点	0	総合評価					-
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	60	事業名	グリーンサポート制度							
部名	市民部		課名	地域づくり推進課						
総合計画上の位置付け	章	第5章	都市基盤			展開方向	①	公園・緑地の管理や運営の多様化		
	基本施策	5-06	公園・緑地				公園ボランティア制度やグリーンサポート制度などを活用し、市民等との協働による公園・緑地の管理運営を推進します。			
	施策	5-06-01	公園・緑地の整備							
相手方の名称	自治会等地域の団体			協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	通年			事業開始年度	平成20年度					
令和3年度事業費	予算額	14,431		決算(見込)額	14,120	(単位：千円)				
事業の概要・目的	市民が公園を快適かつ安全に利用できるようにするとともに、市民の自主的な活動の推進を図る。									
目標指標	指標名	グリーンサポート制度による公園管理率								
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	32	34	36	38	36	36	
実績値	28	31	33	34	35	35				
令和3年度取組内容	引き続き、情報紙「りろば」の発行やしみんだより、ホームページの広報活動等により市民への周知に努め、団体数の増加を図った。また、活動に参加する等して集めた団体の声を基に、今後も手続き方法の改善や活動の推進・拡大を図った。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1					
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				4	4	4	4	
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				4	4	4	4	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				4	4	4	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				4	4	4	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				4	4	4	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				4	4	4	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				5	5	5	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				5	5	5	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				5	3	5	3	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	4	4	4	
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				4	5	4	5		
評価点					39	39	39	39		

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市民等との協働により公園の美化が保たれ、適正に公園を管理できた。登録団体も増加しており、地域の親睦も深まっている。	別紙アンケート結果
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	参加者の高齢化等により、活動の継続が困難になる場合もある。市と活動団体が協力しながら積極的に情報発信を行い、若い世代の参加を促進する必要がある。	別紙アンケート結果

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	61	事業名	なら燈花会開催事業						
部名	観光経済部		課名	観光戦略課					
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済			展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実 オフシーズンである夏の時期に「なら燈花会」や「ハサラ祭り」などを開催し、1年を通じて観光客が訪れる観光資源を育てます。		
	基本施策	6-01	観光						
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	特定非営利活動法人 なら燈花会の会			協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	8月5日～14日			事業開始年度	平成11年度				
令和3年度事業費	予算額	10,000		決算(見込)額	8,040	(単位:千円)			
事業の概要・目的	観光閑散期の奈良の夏に多くの観光客を呼び込むため、奈良公園内の7カ所の会場で毎夜約300人を超えるボランティアの人力によって20,000個のろうそくを灯し、歴史的建造物等のライトアップを含めた夏の祭典として、なら燈花会を開催する。								
目標指標	指標名	期間中の来訪者							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
実績値	911,000	975,000	951,000	945,000	0	0			
令和3年度取組内容	しみんだより・観光パンフレット・ホームページ、公共施設へのチラシ・ポスター設置等を通じ、ボランティア募集を積極的に展開した。また、「なら燈花会支援会議」に参画し、関係団体と一体になったPR活動に努めた。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → ↓ ↓ ↑ ↑ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			4	4	
評価点					40	40

総合点	80	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	令和3年度はコロナにより無観客での実施となったが、「特定非営利活動法人 なら燈花会の会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって夏の奈良の風物詩として認知されている。また、ボランティアをはじめとする多くのスタッフが奈良を訪れることにつながり、奈良を愛する心を育むことができた。	特定非営利活動法人 なら燈花会の会で企画運営するが、行政や社寺の協力がなければ到底事業を継続していくことはできない。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から観客を動員しての開催は断念せざるを得なかったが、行政の協力のもと夏の奈良の風物詩をつないでいくことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	コロナの影響もあり、期間を通じて一定数のボランティアを確保することが困難になりつつあり、応募しやすい環境づくりのための工夫が必要な状況である。	会員の高齢化とボランティアの不足、また役員の後継者不足は常に課題であるがコロナ禍の影響でより深刻な問題となったと思われる。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	62	事業名	ガイド付きツアー						
部名	観光経済部		課名	観光戦略課					
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ② 観光客受入体制の充実 着地型観光（目的地である着地側で企画する観光）の内容の充実と、広報の強化に努めます。				
	基本施策	6-01	観光						
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	なら・観光ボランティアの会		協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	7月・8月・12月・1月を除く通年		事業開始年度	平成22年度					
令和3年度事業費	予算額	200		決算(見込)額	200 (単位：千円)				
事業の概要・目的	観光ボランティアガイドの解説のもと、観光客の皆様は歴史の残る奈良を歩いて、学び、楽しんでもらう。								
目標指標	指標名	ガイドツアー参加者（集客）の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
実績値	638	601	897	942	124	50			
令和3年度取組内容	観光ボランティアガイドの解説のもと、観光客の皆様は歴史の残る奈良を歩いて、学び、楽しんでもらうことができた。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1		
← ← → → ↓ ↓ ↑ ↑ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				4	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				5	5	
評価点						41	43

総合点	84	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	利用した観光客からの評価は高く、満足していただいている。また、協働相手と密に連絡をとることによって、利用者からの感想が聞ける。	行政との情報交換を進めながら、より魅力的なコース設定やテーマ設定を行った結果、お客様から高い評価を得ることが出来、また参加したいという声を沢山頂いている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナの影響により、多くのコースで催行中止となったが、利用者からの評価は高く、コース内容に変化を持たせることにより、さらなる魅力的なコースの造成を期待する。	新型コロナの影響により、催行中止せざるを得ない期間が続き、又、広報活動も十分できず苦戦したが、秋のツアーでは一時期再開でき、参加者の喜びの声を聴くことができた。今後も更なる情報交換を進めより魅力的なコースやテーマ設定を行っていききたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	63	事業名	しあわせ回廊～なら瑠璃絵～開催事業						
部名	観光経済部			課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済			展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光				オフシーズンである冬の時期に「珠光茶会」や「しあわせ回廊なら瑠璃絵」を開催し、1年を通じて観光客が訪れる観光資源を育てます。		
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	なら瑠璃絵実行委員会			協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	2月8日～2月14日			事業開始年度	平成21年度				
令和3年度事業費	予算額	8,000		決算(見込)額	8,000		(単位:千円)		
事業の概要・目的	春日大社本殿、東大寺大仏殿、興福寺東金堂の夜間拝観の実施や、奈良国立博物館の夜間開館、三社寺をつなぐ奈良公園内におけるLEDライト等によるあかりの演出などを行う。								
目標指標	指標名	期間中の来訪者							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
実績値	386,000	369,000	412,000	315,000	13,500	37,400			
令和3年度取組内容	しみんだより・観光パンフレット・ホームページ等を通じ、PRを積極的に展開した。また、「なら瑠璃絵推進委員会」に参画し、関係団体と一体になったPR活動に努めた。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価				
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解	自主性尊重	自立化	目的共有	相互補完	公開	相互変革	期限設定
	←	←	→	→		お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	協働相手と目的を共有することができましたか。	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。
できた	少しかつた	どちらとも書えない	あまりできなかった	できなかった		5	4	5	4	5	4	3	4	3
						5	4	5	4	5	4	3	4	3
						38	35							

総合点	73	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	「なら瑠璃絵実行委員会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって経費的、内容的に行政だけでは賅いきれない規模の事業の実施が可能となった。	オミクロン株が大流行のなかでの開催で、感染症対策における適切な公的機関情報共有や積み重ねられた経験を迅速に共有いただき、実施実現を前向きに後押しをいただきました。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	冬季イベントということもあり、当日のボランティアを確保することが困難な状況にあり、応募しやすい環境づくりを進める必要がある。	決してボランティアで実施・開催することがすべて悪いとは思いませんが、ボランティアですべてを賅う・賅おうという流れは、正直限界を迎えているように感じます。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	64	事業名	バサラ祭り						
部名	観光経済部			課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済			展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光				オフシーズンである夏の時期に「なら燈花会」や「バサラ祭り」などを開催し、1年を通じて観光客が訪れる観光資源を育てます。		
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	特定非営利活動法人 バサラ衆			協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	8月末			事業開始年度	平成10年度				
令和3年度事業費	予算額	1,500		決算(見込)額	1,500		(単位:千円)		
事業の概要・目的	「バサラ祭り」は市民参加型の祭りで、それぞれ工夫を凝らしたコスチュームを着たダンスチームが各会場を踊りながらパレードを行うものであり、奈良の夏の顔の一つとして実施する。								
目標指標	指標名	期間中の来訪者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
実績値	27,000	30,000	32,700	34,000	0	0			
令和3年度取組内容	無観客での実施だったため、実行委員会と共に、ポスター・チラシ、観光ウインドー等で広報活動を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2	1					
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							4	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							4	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							3	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							3	3	
評価点								34	37	

総合点	71	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	コロナ禍のため無観客での実施となったが、「バサラ衆」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって事業の実施が可能となった。	若草山山頂での無観客開催であったが、出演者には極めて好評だった。また決算報告を1円まできっちりとする事で、行政とは今まで以上の信頼関係を築く事ができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	コロナ禍で未確定な要素が多かったことも一因だと思われるが、他団体と比較し、状況の報告が少ないため、なお一層の情報共有が望まれる。	あまり情報交換がなかったが、早い時点で共有できれば、もっとスムーズに事が運んだと思う。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	65	事業名	転害門前観光駐車場の運営管理						
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課					
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。				
	基本施策	6-01	観光						
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	ミディ総合管理株式会社		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年度）					
令和3年度事業費	予算額	2,974		決算(見込)額	2,974（単位：千円）				
事業の概要・目的	観光客及び市民の駐車場の便宜を図るために駐車場を設置し、指定管理者制度にて運営管理を行う。								
目標指標	指標名	駐車利用台数の増							
	単位	台	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	5,400	5,500	6,724	6,900	7,000	4,500
実績値	5,970	6,625	7,297	6,941	4,029	4,000			
令和3年度取組内容	指定管理者であるミディ総合管理株式会社との情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運営を行うことで観光客及び市民の駐車場の便宜を図った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかつた	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			4	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			5	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			5	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			3	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			4	4	
評価点					37	36

総合点	73	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	駐車場運営の豊富な経験を活かした、利用者目線でのサービス提供が図られた。	日頃のコミュニケーション等により連携を図っていた結果、大きなトラブル等発生しなかった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	駐車場の利便性向上やさらなる安全環境の維持、様々なトラブル回避に尽力されたい。	更なる情報の共有化やさまざまなトラブル時の連携等。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	66	事業名	奈良市ならまち格子の家の運営管理						
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課					
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済			展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 伝統芸能や工芸など体感・体験できる体制を整えます。			
	基本施策	6-01	観光						
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	ならまち格子の家指定管理者コンソーシアム		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年度）					
令和3年度事業費	予算額	4,208		決算(見込)額	4,267（単位：千円）				
事業の概要・目的	ならまちの伝統的な町家を再現し、観光客及び市民の観覧と利便に供するとともに、町並み保全に資するために格子の家を運営する。								
目標指標	指標名	入館者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	100,000	105,000	100,000	115,000	120,000	36,500
実績値	100,390	95,383	85,152	77,933	33,093	28,155			
令和3年度取組内容	指定管理者であるならまち格子の家指定管理者コンソーシアムとの情報交換、報告、助言に努めることで、町並み保全に資するための効果的な施設運営を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ← できた ← 少しかつた ← どちらとも書かない → できなかつた	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	3
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	3	3
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	3	5
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	3
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	3	3
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	3
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
評価点			30	31

総合点	61	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域に根差した観光案内が図られた。	特になし
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	アフターコロナに向けてより良い施設運営を図るため、施設の目的や今後の展望について、課題を共有する必要がある。	特になし

## 総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目

要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	67	事業名	奈良町からくりおもちゃ館の運営管理						
部名	観光経済部			課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済			展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光				伝統芸能や工芸など体感・体験できる体制を整えます。		
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	特定非営利活動法人からくりおもちゃ塾奈良町			協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成24年度				
令和3年度事業費	予算額	7,085			決算(見込)額	6,714			(単位:千円)
事業の概要・目的	明治初期の雰囲気が残る町家の空間のなかで、からくりおもちゃを介して、訪れていただいたお年寄りや子どもたち、観光客などの世代間交流や地域間交流の場として活用することにより、ならまちの活性化及び奈良市の観光振興の拠点とするために奈良町からくりおもちゃ館を運営する。								
目標指標	指標名	入館者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	52,000	52,500	50,000	51,000	52,000	16,500
実績値	46,227	40,972	37,625	32,767	14,993	12,646			
令和3年度取組内容	指定管理者である特定非営利活動法人からくりおもちゃ塾奈良町との情報交換、報告、助言に努めることで、伝統的な町家を後世に引き継ぐとともに、地域の活性化と観光振興の拠点となるような効果的な施設運営を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価					
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解	自主性尊重	自立化	目的共有	相互補完	公開	相互変革	期限設定	評価点	
						お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	協働相手と目的を共有することができましたか。	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	34	29
できた	少しか	どちらとも	あまり	できな												

総合点	63	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	からくりおもちゃに精通、かつ地元に着目した指定管理者のノウハウを発揮し、施設と奈良町の魅力発信につながった。	館で働くスタッフの意識が行政との協働感覚が持てるようになってきた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	アフターコロナに向けて、利用者へのさらなるサービス向上と施設の魅力発信をお願いしたい。	協働への認識を深めるため、年に1回でも話し合いが持てると思います。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	68	事業名	旧鍋屋交番きたまち案内所の運営管理						
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課					
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済			展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実	
	基本施策	6-01	観光				歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。		
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会			協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成24年度				
令和3年度事業費	予算額	209		決算(見込)額	191		(単位:千円)		
事業の概要・目的	奈良町のきたまち地域を訪れる観光客の利便を図るとともに、地域の活性化による観光振興に寄与することを目的として、まちかど観光案内所を設置する。								
目標指標	指標名	来館者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	10,000	10,500	6,000	6,500	7,000	1,900
実績値	5,999	4,716	4,814	4,388	1,713	3,146			
令和3年度取組内容	運営委託先である鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会との情報交換、報告、助言に努めることで、観光客の利便を図るとともに、地域の活性化による観光の振興に寄与することができるような運営を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかつた	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			4	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			4	5	
評価点					41	45

総合点	86	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域に密着した、きたまちの案内所として地域の魅力発信と地域の活性化に寄与。	旧鍋屋交番きたまち案内所の維持費用等を市で負担いただくことにより案内所の管理運営ができた。当会のイベントを市民だよりに掲載いただき、イベント告知に非常に寄与した。案内所を「有形登録文化財」の登録いただいた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	引き続き、地域に密着した情報発信をお願いしたい。ボランティアによる自主運営であるため、より一層の情報共有を図る必要がある。	年度当初に情報交換や意見交換を行っており、情報交換を行うことにより、相互の状況を知り合える。引き続き情報交換、意見交換が重要と感じている。案内所の建物が10年経過し各所に痛みが出始めている。是非、補修をお願いしたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	69	事業名	史跡・名勝をめぐるウェルカムサービス～知って奈良とびらガイド～						
部名	観光経済部		課名	観光戦略課					
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済			展開方向 ② 観光客受け入れ体制の充実 事業者・市民が奈良の歴史・文化を学び、奈良の魅力の理解の下、もてなしの心の醸成により、来訪者への充実したサービスの提供を図ります。			
	基本施策	6-01	観光						
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	なら・観光ボランティアガイドの会		協働事業の実施手法	補助・助成					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成25年度					
令和3年度事業費	予算額	100		決算(見込)額	100 (単位:千円)				
事業の概要・目的	奈良市へ転入の届け出を行った世帯に、無料でなら・観光ボランティアガイドの会による観光案内を行った。								
目標指標	指標名	期間中の来訪者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	50	50	50	50	50	50
実績値	11	10	3	18	7	7			
令和3年度取組内容	転入届出窓口等で、積極的なPR活動に努める。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2			1
← 5 4 3 2 1 → ← できた 少しかつた どちらとも書かない どちらでも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				5	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				5	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				5	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				4	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				5	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				5	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				3	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				3	4	
評価点					39	37	

総合点	76	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	本市で暮らしはじめる方々に、奈良を知っていただき、地域の魅力を掘り起こしていただきながら、これからともに育てていただくための第一歩として「おもてなしの心」で迎えることができた。	本制度を利用されたお客様は、他の市にはない制度で、奈良を知るうえで大変良かったとの声が寄せられている。利用者数も増加の傾向にあり、今後とも積極的に利用推進について取り組んでいく。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルス感染症の影響により、大部分の期間で実施を見合わせていたが、マイクロツーリズムで近隣観光が見直されていることもあり、参加を増加させるため、周知等を引き続き行う必要がある。	令和3年度は、市役所市民課の窓口でポスター掲示を行い、市のSNSで発信することで、本制度の認知度アップに取り組んだ。今後はマスコミ等との連携を深め、さらに積極的な周知活動に取り組むこととしたい。

## 総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目

要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	70	事業名	奈良市きたまち転害門観光案内所の運営管理						
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課					
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済			展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光				歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。		
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	転害門前旧銀行跡建物活用協議会			協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成25年度				
令和3年度事業費	予算額	1,667			決算(見込)額	1,571			(単位:千円)
事業の概要・目的	旧南都銀行手貝支店である奈良市所有の町家を改修し地域の団体と協働して、きたまちの観光客に対する観光案内や、観光資源の発掘及び調査研究、地域活性化の拠点などとして多目的に利用できる観光案内所として運営する。								
目標指標	指標名	来館者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	10,000	10,500	10,000	10,100	10,200	3,350
実績値	9,353	8,103	7,381	7,433	3,049	2,418			
令和3年度取組内容	運営委託先である転害門前旧銀行跡建物活用協議会との情報交換、報告、助言に努めることで、観光客の利便を図るとともに、地域の活性化による観光の振興に寄与することができるような運営を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価						
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解	自主性尊重	自立化	目的共有	相互補完	公開	相互変革	期限設定	評価点	
	←	←	→	→		お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	協働相手と目的を共有することができましたか。	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	33	40
できた	少しかつ	どちらとも書えない	あまりできなかった	できなかった												

総合点	73	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	東大寺転害門に隣接した、きたまちの案内所として地域の魅力発信と地域の活性化に寄与。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館を余儀なくされたが、互いに協力して観光案内所がクラスターにならないよう対策を考え、来館者の感染予防に努めることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	コロナ禍でさらに顕著になった、ボランティア人材確保を図る必要がある。	奈良町にぎわい課の職員との信頼関係ができ、互いの役割を理解し合うことで来館者へのおもてなしにつながってきている。この良い関係性が今後も継続できるよう望む。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	71	事業名	奈良町南観光案内所の運営管理						
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課					
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光			歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。			
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	有限会社くるみの木			協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成27年度				
令和3年度事業費	予算額	26,788		決算(見込)額	26,788	(単位:千円)			
事業の概要・目的	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信しながら、奈良町南観光案内所への誘客を促進する。また、駐車場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行う。								
目標指標	指標名	来館者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	50,000	50,500	51,000	51,500	52,000	15,000
実績値	30,522	31,855	24,611	24,422	13,579	8,667			
令和3年度取組内容	観光案内所の運営を委託している有限会社くるみの木との情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運営を行った。 また、有限会社くるみの木が指定管理している奈良町南観光駐車場についても、案内所と一体的に運用し、観光客及び案内所の利用者の利便を図った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2			1
← ← → → ↓ ↓ ↑ ↑ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				4	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				4	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				5	5
	自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				4	5
		(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
	目的共有	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				5	5
		協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				5	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				5	5	
評価点					41	45	

総合点	86	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	事業者が長年培ってきたノウハウを活用しての案内所運営、さらには飲食や物販を提供できる複合施設として、奈良町の魅力向上につながった。	弊社の特性を理解し、自主性を尊重していただき、適切にフォローをしていただいていると感じています。特にコロナ禍で、奈良市の状況や取り組む方向について丁寧に説明していただくことで事業の今後の方向性に対する検討材料として活用させていただくことができています。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	アフターコロナに向けての民間ならではの企画提案や事業展開、さらには奈良町に限らず県内各所を含めた観光案内に尽力されたい。	弊社が協働させていただいていることが市民の皆様にとって良い効果を生むように、行政の担当様にはスムーズに事業を遂行できるよう、引き続きフォローしていただけるとありがたいです。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	72	事業名	奈良町にぎわいの家の運営管理						
部名	観光経済部			課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済			展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光				昔ながらの暮らしや伝統文化が体感・体験できる体制を整えます。		
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	奈良町にぎわいの家管理共同体			協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成27年度				
令和3年度事業費	予算額	16,700		決算(見込)額	16,353		(単位：千円)		
事業の概要・目的	奈良町を訪れる観光客、奈良町に暮らす住民、奈良にゆかりを持つ多くの人々が集う、奈良町に息づく歴史文化の発信拠点、にぎわい創出の拠点とするために奈良町にぎわいの家を運営する。								
目標指標	指標名	来館者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	100,000	105,000	97,500	98,500	100,000	38,000
実績値	96,018	93,247	93,006	89,306	36,954	30,992			
令和3年度取組内容	指定管理者である奈良町にぎわいの家管理共同体との情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運営を行うことで、伝統的な町家を後世に引き継ぐとともに、観光振興、地域の活性化、市民と観光客の交流及び教育機関との連携の拠点となるような運営を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価						協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解		
5 ← ← → → 1 できた 少しかつた どちらとも書かない あまりできなかった できなかった						お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
						(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	5
						(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	5
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
						相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
						公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
						相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
						期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
						評価点		41	43

総合点	84	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	体験講座や地域と連携したイベントを開催し、コロナ禍ながら、市民や観光客に奈良町を知る機会を提供。さらにはにぎわい創出の拠点の一つとして奈良町の魅力発信が図られた。	コロナ対策についての奈良市の判断・状況や、当館の来館者情報などを積極的に共有し、円滑な開館運営ができた。他府県の移動が難しいなか、地域住民に、奈良町にぎわい課/奈良市の情報やネットワークを通して、当館の魅力と奈良町の生活文化を発信できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	アフターコロナに向けて、より魅力的な施設運営と情報発信をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>当館と、奈良市の観光部局や観光協会とのパイプをつなぐ更なるサポートを期待したい。</li> <li>奈良町の活性化と奈良町家保存のためのアイデアを出し合い、協働して取組む関係をいっそう盛り上げていきたい。</li> <li>協働に関する考え方や施策/事業等について、行政とともにお互いに研修する場を設けることを検討いただきたい。</li> </ul>

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	73	事業名	奈良市京終駅観光案内所の運営管理						
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課					
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。				
	基本施策	6-01	観光						
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	特定非営利活動法人 京終		協働事業の実施手法	委託					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成30年度					
令和3年度事業費	予算額	2,306		決算(見込)額	2,300 (単位:千円)				
事業の概要・目的	「駅機能」に魅力ある空間の演出を施すとともに、集客や、賑わいを創出する「観光案内機能」と「コミュニティ機能」を付加する事により、訪れる人々と、地域に暮らす人々が交わることで、賑わいが創出される拠点としての場作りを目指す。								
目標指標	指標名	来館者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値			500	12,000	12,000	4,300
実績値			489	6,177	3,851	4,922			
令和3年度取組内容	運営委託先である特定非営利活動法人京終との情報交換、報告、助言に努めることで、観光客の利便を図るとともに、地域の活性化による観光の振興に寄与することができるような運営を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← できた	← 少しかつた	→ どちらとも書えない	→ あまりできなかった	→ できなかった		
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				3	3
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				3	4
自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				3	5
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				3	3
	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				3	4
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				3	4
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				3	3
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				3	3
評価点					28	33

総合点	61	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	カフェを併設した観光案内に加え、待合室の駅ピアノを介して、駅舎の活用事例として情報発信が図られ、にぎわい創出の一助となった。	協働により自分達が足りない部分が補われ、その結果地域に良い連動が生まれ、昨年より素敵な地域に近づいていけたと感じる
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今一度、委託業務全体を再確認し、適正な業務体制を構築する必要がある。	地域の特性なのか、管理運営を進めるなかで、喫煙、落書き、小火、破損等、地域の民度向上と意識の変革がおこればさらに良い地域になるのではと感じています。上記の予防を含め、特に「トイレ管理」の根本的な改革と対策が叶うように動いていただくと助かります。

## 総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目

要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業										
No.	74	事業名	奈良工芸フェスティバル							
部名	観光経済部			課名	産業政策課					
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済			展開方向	③	産業の支援と地域経済の活性化		
	基本施策	6-04	商工・サービス業				奈良の伝統工芸と伝統産業の継承・発展のため、制作体験やイベント、インターネットを通じて情報発信を行い、工芸品等の販路拡大に努めます。また、緊急の課題である伝統工芸の後継者問題については、研修制度等により育成を支援します。			
	施策	6-04-01	商工・サービス業の振興							
相手方の名称	工芸作家			協働事業の実施手法	共催					
実施の時期	年1回			事業開始年度	平成元年度					
令和3年度事業費	予算額	543			決算(見込)額	0				(単位:千円)
事業の概要・目的	毎年、秋期の正倉院展期間中に合わせて、なら工芸館では「奈良工芸フェスティバル」を開催し、一刀彫・赤膚焼等の工芸作品の特別展示、制作実演・体験などを通じて、奈良工芸に対する理解と認識を深める。また工芸品を期間中、特別販売することで工芸の振興発展に努める。									
目標指標	指標名	来場者数の増								
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	6,300	6,350	6,400	6,450	6,500	6,500	
実績値	5,453	5,515	5,774	6,417	0	0				
令和3年度取組内容	新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年度に引き続き中止となった。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2	1					
← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							—	—
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							—	—
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							—	—
	自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							—	—
		(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							—	—
	目的共有	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							—	—
	相互補完	協働相手と目的を共有することができましたか。							—	—
	公開	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							—	—
	相互変革	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							—	—
	期限設定	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							—	—
	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							—	—	
	評価点							0	0	

総合点	0	総合評価	-				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	75	事業名	「奈良しみんだより」の英訳						
部名	総合政策部		課名	秘書広報課					
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進						
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有						
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進						
			展開方向	① 市政情報の提供 市政情報入手についての市民ニーズの把握に努めるとともに、しみんだよりやホームページなど多様な広報手段を利用し、それぞれの特色を生かして連携することで、有効な情報発信を行います。					
相手方の名称	奈良S・G・Gクラブ		協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	毎月		事業開始年度	平成26年度					
令和3年度事業費	予算額	120	決算(見込)額	120 (単位：千円)					
事業の概要・目的	日本語が分からない外国籍市民等に市政情報をお知らせする								
目標指標	指標名	設置部数							
	単位	部/月	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	190	190	200	200	200	200
実績値	198	195	195	200	200	200			
令和3年度取組内容	今年度発行のしみんだよりについても、英語版の作成・市ホームページへの公開等の協働内容を、すべて遅滞なく進めることができた。また、相手方との印刷の日程調整や、用紙の支給等の段取りについてもスムーズに行うことができ、年間を通して良好な関係を築けたといえる。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
4	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
3		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
2	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
1		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
	評価点		43	44

総合点	87	総合評価	A				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	外国籍市民等が増加する中、市政情報の需要も高まり、しみんだよりの英語版は必須になっている。特に令和3年度は、ワクチン接種の会場案内等、国籍問わず生命に係る重要な記事の掲載が目立ったため、これらを幅広く周知するうえで大きな助けになった。	奈良しみんだよりの翻訳は1993年から休みなく行っており、市内在住の外国人への日常生活に欠かせない情報源となっていると確信しています。コロナウイルスのパンデミック関連の記事の迅速な発信や、外国人で子供を抱える家族への健康関連情報の発信に努めるとともに、大きなイベント情報の発信のみならず、予約なしでも参加できるようなイベントもできるだけ取り上げるようにしています。作業をするのに際して、原稿配信スケジュールの開示(見える化)や最速での原稿提供をしていただけているので、作業をスムーズに進めることが出来るようになりました。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	市では近年、LINEによるセグメント配信を実施し「必要な人に必要な情報を届ける」取り組みを行っている。広報紙においても、コロナ禍以降、記事が増大する中、外国人に必要な情報は何かといった視点から、情報の取捨選択を行政側から協働相手方に提供することも、一部必要ではないかと考えている。	印刷に際して、秘書広報課の印刷機を使用させて頂いているので、以前のように、印刷場所探しに奔走する必要がなくなり感謝しています。また、印刷が終わったあとの、用紙の折り返し作業場所も提供して頂いているので、安心して作業計画を立てられます。最近では、自治体等からの要望による、配布部数の増部の依頼も受け、着実に作業の成果が出ていると自負しています。コロナ禍が一段落して、在留外国人が戻ってきて、更にこのような情報源が必要とされる時に対応できるよう、行政側の方々と相談しながら活動を進めたいと考えます。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	76	事業名	まちづくり振興事業「月ヶ瀬地域振興協議会」						
部名	市民部	課名	月ヶ瀬行政センター地域振興課						
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向 ② 市政に対する提言、要望等の反映 「新市建設計画」を着実に実施し、月ヶ瀬地域振興協議会の活動を通じて、市政に対する提言、要望等をまちづくりに反映させます。				
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有						
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進						
相手方の名称	各種団体・自治会等		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成17年度					
令和3年度事業費	予算額	1,700		決算(見込)額	1,523 (単位:千円)				
事業の概要・目的	月ヶ瀬地域における将来のまちづくりについて協議を行うほか、地域の振興等を図り、もって奈良市の発展に資する。								
目標指標	指標名	会議の開催回数							
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
		目標値	24	24	24	24	24	24	
実績値	13	14	14	12	8	4			
令和3年度取組内容	市・県等関係課及び機関等への連絡調整、月ヶ瀬地域振興協議会の事務局として支援を行った。令和3年度は、新市建設計画に伴う要望活動や地域イベント等の企画及び実施に関する会議等を行った。また、パソコンやスマートフォンから月ヶ瀬地域の魅力を知ることが出来る月ヶ瀬バーチャルマップの作成及び運営を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2			1
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				4	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				3	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				3	3
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				3	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				3	3
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				4	4	
評価点					35	35	

総合点	70	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域の振興を目的として地域の団体や協議会委員が連携し、事業を企画、実施し、地域コミュニティの形成ができた。	地域イベントについては、令和3年度も引き続き新型コロナウイルス感染症予防のため中止としたが、その準備段階で地域団体等連携し活性化に向けての取組みができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域組織としての自主的な活動の充実強化のため、リーダー、後継者の育成が不可欠であり、行政との役割分担を明確化し、今後の組織の在り方、方向性について検討し、話し合っていく必要がある。	引き続き協働を進めながら、自立化に向け、組織の在り方や実施する事業の内容等について検討し、話し合っていく必要がある。

## 総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目

要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	77	事業名	都祁まちづくり協議会						
部名	市民部	課名	都祁行政センター地域振興課						
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進			展開方向 新市建設計画を推進するため、都祁まちづくり協議会の活動を通じて、市政に対する提言、要望等をならづくりに反映させます。			
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有						
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進						
相手方の名称	地域住民（都祁まちづくり協議会）		協働事業の実施手法		補助・助成				
実施の時期	通年		事業開始年度		平成17年度				
令和3年度事業費	予算額	3,500		決算(見込)額	726 (単位：千円)				
事業の概要・目的	1. 住民要望の取りまとめ及び新市建設計画の進捗に関する事。2. 地域間交流事業（農業体験交流事業）3. 地域振興事業（都祁高原マラソン大会）								
目標指標	指標名	利用者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	1,600	1,620	1,640	1,660	1,680	1,680
実績値	1,487	1,596	1,577	1,652	0	144			
令和3年度取組内容	新市建設計画の進捗状況の把握と県・市へ要望を行った。例年、地域交流事業として実施している農業体験交流事業は新型コロナウイルスの影響で人数を制限して実施した。また、地域振興事業の一環として実施している都祁高原マラソン大会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から今年度は中止した。次年度以降の実施に向け、安全で安心して参加していただける事業を検討するとともに都祁の名を各地に発信し地域活性化に繋げていく。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2			1
← ← → → ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかつた	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				4	3
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				3	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				3	3
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				3	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				3	4	
評価点					30	31	

総合点	61	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	一体的なまちづくりのための新市建設計画の進捗を行っている。また、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い人数を制限することで農業体験交流事業を実施することができた。	互いの特性を発揮し、各種会議等での情報共有が図られ、都祁地域の活性化に繋げている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	自主的な活動の充実と強化のためリーダーの養成と後継者の育成。	行政との関わりや協働における役割分担の明確化。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	78	事業名	地域ミーティング						
部名	市民部		課名	地域づくり推進課					
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向 ① 市民参画及び協働の推進 市長が地域に向いて地域活動に取り組む各種団体と対話を行い、地域の課題に対する認識を共有し、協働して解決に向けて考え、地域・行政が協働して解決に向けて考えていくことを目的に、平成25年10月から「地域ミーティング」を実施。平成30年11月からは、より多くの地区で実施できるよう、中学校区単位で実施している。 (平成29年12月～平成30年7月は、奈良市自治連合会のブロックを単位として、市長が地域を訪れ、地区の主要四団体の役員との対話を通して情報共有と一層のパートナーシップの強化を図ることを目的に「地域の未来についての懇談会」として開催)				
	基本施策	7-02	市民参画・協働						
	施策	7-02-01	市民との協働による市政運営						
相手方の名称	奈良市自治連合会		協働事業の実施手法	共催					
実施の時期	通年		事業開始年度	平成25年度					
令和3年度事業費	予算額	0		決算(見込)額	0 (単位:千円)				
事業の概要・目的	市長が直接地域に出向き、地域活動に取り組む各種団体の役員と対話を行う中で、地域課題に対する認識を共有し、地域・行政が協働して解決に向けて考えていくことを目的に、平成25年10月から「地域ミーティング」を実施。平成30年11月からは、より多くの地区で実施できるよう、中学校区単位で実施している。 (平成29年12月～平成30年7月は、奈良市自治連合会のブロックを単位として、市長が地域を訪れ、地区の主要四団体の役員との対話を通して情報共有と一層のパートナーシップの強化を図ることを目的に「地域の未来についての懇談会」として開催)								
目標指標	指標名	開催地区数							
	単位	地区(R1～は中学校区)	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
		目標値		30	35	40	15	17	11
実績値		23	25	31	8	0	0		
令和3年度取組内容	中学校区ごとに開催調整を行い、順次地域ミーティングを実施する予定であったが、令和3年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催しなかった。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1		
5 ← ← → → 1 できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				—	—
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				—	—
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				—	—
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				—	—
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				—	—
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				—	—
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				—	—
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				—	—
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				—	—
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				—	—	
評価点						0	0

総合点	0	総合評価					-
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	令和3年度は開催できなかったが、地域ミーティングの開催により、地域課題について地域・行政双方が認識を共有するとともに、その課題解決につながることを期待できる。	開催できなかったが、地域と市長がまちづくりに関して話し合う機会が必要。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	開催方法や開催時期等について、意見交換しながら進めていきたい。	まちの課題や、必要なことを行政と共有することが必要だと思う。そこで協働参画することにより、課題解決につながって行くことを期待する。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	79	事業名	HUG <sup>2</sup> （はぐはぐ）祭り						
部名	市民部		課名	地域づくり推進課					
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		① 市民参画及び協働の推進 市民参画と協働によるまちづくりを総合的・計画的に推進するために、本市で実施し、又はこれから実施しようとする協働事業を実施計画として策定した「奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画」に基づき、市民参画と協働を進めていきます。				
	基本施策	7-02	市民参画・協働						
	施策	7-02-01	市民との協働による市政運営						
相手方の名称	市民公益活動団体		協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	5月～12月		事業開始年度	平成26年度					
令和3年度事業費	予算額	50		決算(見込)額	0 (単位：千円)				
事業の概要・目的	市民に、ボランティアや市民公益活動団体の様々な活動について知っていただくとともに、その魅力を伝え、ともに活動したり支援したりするきっかけをつくり出すこと、また市民公益活動団体の情報交換や交流の機会創出を目的に、ボランティアインフォメーションセンターにおいて、HUG <sup>2</sup> （はぐはぐ）祭りを開催する。								
目標指標	指標名	HUG <sup>2</sup> 祭り参加者数 (R3については視聴者数 2022.6.17時点)							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	660	695	760	780	800	400
実績値	770	744	1,146	1,296	0	1,857			
令和3年度取組内容	毎年、当センター登録団体等の協働事業として本事業を実施していたが、2年度については新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を見送り、3年度についても従来の形での開催を見送り、公式YouTubeチャンネルを使用したオンライン配信による開催を実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			5	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			5	5	
評価点					43	43

総合点	86	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	コロナ禍において、各団体の活動が一步でも前に進めるよう、活動PR動画を作成することで、今までにない、新しい形での活動方法を模索することができた。	・オンラインイベントという新しい試みによって、コロナ禍でも「HUG <sup>2</sup> 祭り」が開催されて良かったです。ライブ配信された映像は、団体それぞれが工夫を凝らして生き生きとアピールされていることに感動しました。 ・今回の配信用の動画を制作する過程で、私たちが貴重な体験させていただきました。さらにスキルアップし、団体の発展に努めたいと思います。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、団体の活動をより効果的に市民に知ってもらうための方法を探り、また、団体・市民がより安心して参加できるよう、あらゆる対策を講じながら新しい形での開催方法を探る。	・やはり会場で開催できないことは寂しく思いますし、残念です。一日も早く、以前のような「HUG <sup>2</sup> 祭り」が戻ってくることを熱望します。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業									
No.	80	事業名	児童館運営事業						
部名	子ども未来部		課名	子ども育成課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 児童館においては、児童の健全育成とともに市民との協働による子育て支援の拠点として事業を展開し、貸館や児童館の自主事業の広報を充実することにより利活用の促進に努めます。				
	基本施策	3-02	子育て						
	施策	3-02-03	子育てと仕事の両立支援						
相手方の名称	公益財団法人奈良市生涯学習財団		協働事業の実施手法	指定管理					
実施の時期	随時		事業開始年度	令和2年度（指定管理者制度導入年度）					
令和3年度事業費	予算額	121,022		決算(見込)額	120,507（単位：千円）				
事業の概要・目的	子どもと長期的・継続的に関わり、遊びを通して子どもの発達を図る。また、地域の中での子どもの居場所、遊びの拠点となることを目指し、安定した日常生活を支援するとともに、子育て家庭に対する相談・援助を行い、地域における子育てを支援する。また、子育て支援の拠点として、乳幼児とその保護者に対して遊びや交流の場、様々な情報の提供を行い、安心して子育て・子育てができる環境を整備し、子育て支援機能の充実を図る。								
目標指標	指標名	児童館（4館）の利用者数							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	39,700	39,100	38,500	38,000	38,000	19,000
実績値	34,395	31,266	30,376	24,980	19,075	17,794			
令和3年度取組内容	地域の中での子どもの居場所、遊びの拠点として各種事業を実施するとともに、子どもの安定した日常生活を支援した。あわせて、就学前の児童と保護者の交流、子育てについての相談、情報提供や講座等を行う地域子育て支援拠点事業を大宮児童館を除く3館で実施し、感染症流行下においても安心して利用することのできるよう地域での居場所作りを行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1		
← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかつた	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				4	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				4	3	
評価点					35	34	

総合点	69	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	感染症に配慮し、子どもの健全育成を図るよう施設運営を行った。 また、施設整備についても、互いに連携を図り修繕等を行った。	市の方針を共有するとともに、所管課との連絡を密にすることで、長期的・継続的な遊びを通して、子どもたちの心身の発達を図ることを進めていった。また、子育て支援拠点として、遊びや交流の場として、安心して子育てができる環境整備を図ることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	職員の資質向上を目的とした積極的な研修の参加や、指定管理者の独自性を活かした事業の実施、利用者のニーズに応じた創意工夫に期待する。 また、地域に根付いた施設として、地域との積極的な連携に期待する。	児童館が子どもたちの健全育成、居場所となるよう、所管課との情報共有、連携が必要だと考える。また、施設面では、経年劣化による設備不具合についても情報共有を行いながら、子どもたちが安全に活動できるよう、管理していきたい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	81	事業名	交通安全指導員会						
部名	危機管理監		課名	危機管理課					
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	③	地域の防犯力の強化		
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）			交通安全指導員により、市民に対して交通安全思想の普及と交通安全意識の啓発及び正しい交通道德の確立を図ります。			
	施策	4-01-03	交通安全						
相手方の名称	交通安全指導員会			協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成28年度				
令和3年度事業費	予算額	1,280		決算(見込)額	1,273	(単位：千円)			
事業の概要・目的	交通事故を防止するため、交通安全思想の啓発、正しい交通ルールの実践及び指導、交通環境の巡視などの活動を実施する。また、交通対策協議会の構成団体として交通安全運動各行事等に参加し啓発活動を行う。								
目標指標	指標名	人身事故発生件数							
	単位	件	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	1,280	1,270	1,260	1,250	1,240	1,230
実績値	1,184	1,209	1,032	842	728	853			
令和3年度取組内容	迷惑駐車・違法駐車等防止の啓発活動や、各地域の実情に合わせた見守り巡回活動、交通安全に関する安全点検などの活動を、各地区において自治連合会会長から推薦された交通安全指導員で行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2		
← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			4	3
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			4	3
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			4	3	
評価点					37	35

総合点	72	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	迷惑駐車・違法駐車等防止の啓発活動や、各地域の実情に合わせた見守り巡回活動、交通安全に関する安全点検などの活動は地域に根差した視点が重要であることの相互理解が深まった。	市、警察、市民がコミュニケーションをとり事業を進めることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	当事業の目的や主旨について、定期的で開催される役員会等で意見交換をしている。各地域ごとの交通安全に関する懸案事項について、認識の共有と問題点の改善を図るため、より一層の情報共有と相互理解を図りたい。	地域活動の担い手が不足しており、高齢化が進んでいる。1人が複数の役職を兼任することもあり、対策が必要である。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

## 協働事業

No.	82	事業名	平城・相楽ニュータウンの活性化					
部名	都市整備部		課名	都市計画課				
総合計画上の位置付け	章	第5章	都市基盤		展開方向	①	安全で快適な居住空間の整備促進	
	基本施策	5-07	居住環境			「奈良市住生活基本計画」に基づき、関係部局が連携して、奈良らしい住みよいまちづくりを推進するための住宅政策に取り組みます。		
	施策	5-07-01	居住環境の整備促進					
相手方の名称	木津川市、精華町、UR都市機構西日本支社、関西文化学術研究都市センター㈱、(公財)関西文化学術研究都市推進機構			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	令和3年度			
令和3年度事業費	予算額	0		決算(見込)額	0 (単位:千円)			
事業の概要・目的	奈良市、木津川市及び精華町の2府県3市町にまたがって位置し、令和4年にまちびらき50周年を迎える「平城・相楽ニュータウン」において、将来にわたって良好な街として持続し、誰もが安心安全に暮らせる魅力あるまちを目指し、人口減少・高齢化への対応、新規住民を呼ぶ魅力化、住民・行政のニーズの反映を図るために作成した街の活性化ビジョンを基に、まちの活性化に資する取組みを協働により実施する。							
目標指標	指標名							
	単位	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
		実績値						
令和3年度取組内容	令和3年度は「平城・相楽ニュータウンに係る行政等連絡会議」が開かれ、まちびらき50周年記念式典等に向けた調整が図られた。また府県界を越えたニュータウン内での情報の共有について協議した。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	対等性	相互理解	自主性尊重	自立化		
5	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5			
4	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5			
3	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	4			
2	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	5			
1	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5		
できた	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4		
少しできた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4		
どちらとも書えない	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4		
できなかった	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5		
	評価点		39	41		

総合点	80	総合評価	A				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、奈良市のみでは対面での地元や関係機関と協議が難しい中、相手方と協働することで50周年記念イベント事業の方針が決定された。	新型コロナウイルスの社会情勢により、地元住民の声として50周年記念事業を進めることに慎重にならざるを得なかった時点においても、奈良市はじめ関係者とWEB会議や少人数の打合せをもつことができ、事業の方針が決定された。お礼申し上げます
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	上記のとおり、関係者が一堂に会して話す場を設けることが困難であったため、行政等連絡会議は一度のみの開催であったが、翌年度以降は複数回の開催を期待する。	令和4年がまちびらき50周年の年であり奈良市はじめ関係者が協力し盛り上げています。しかし50周年は通過点であり、これからもますますニュータウンの活性化で関係者の一致協力した協働を取組むため、行政等連絡会議などのご協力をお願いします。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業								
No.	83	事業名	奈良町・大学間連携インターカレッジコンペティション					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活			展開方向	① ボランティア・NPO活動の活性化	
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流（地域間交流）					
	施策	1-01-02	市民交流の活性化					
相手方の名称	奈良町・大学間協議会（畿央大学 健康科学部 人間環境デザイン学科）			協働事業の実施手法	共催			
実施の時期	4月から7月			事業開始年度	令和3年度			
令和3年度事業費	予算額	0		決算（見込）額	0（単位：千円）			
事業の概要・目的	新奈良町にぎわい構想の一環で、大学や地域住民、まちづくり団体と連携し、奈良町エリアで課題解決型授業（フィールドワーク）を実施し、学生と地域の交流を促し、地域発表会で地域還元を行うことで、奈良町での民学官連携による奈良町研究を促進する。将来の奈良町関係者となる担い手の育成を視野に入れ、奈良町でさまざまな分野の学生が関わることができる環境づくりを行う。							
目標指標	指標名							
	単位	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
		実績値						
令和3年度取組内容	大学、まちづくり団体、奈良市で協議会を立ち上げ、奈良女子大学、奈良県立大学、畿央大学、大阪経済大学の4大学が、授業で奈良きたまちエリアを対象に地域課題に取り組む授業を実施。奈良市は、大学とまちづくり団体の関係構築のためのコーディネート、地域住民等への協力調整を行い、学生が地域住民や地域のまちづくり団体にアンケートやヒアリングを実施。最終授業にあわせ地域発表会を行い、参加学生、来場者向けにアンケートを実施。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2			1
← ← → → ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				4	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				3	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				5	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				5	5	
評価点					42	45	

総合点	87
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	様々な関係者が、それぞれの立場や思いでプログラムに参加することで、多彩な視点で地域を見つめることができる事業となった。また、複数の事業実施者が共通の事業に取り組むことで、横のつながりの強化や、関係者の広がりが得られ、意義深い事業となっている。	複数の大学、まちづくり団体が一堂に会して、意見交換を行う機会を持ったことから、特にまちづくり団体において、まちとしての新たなつながりが生まれつつある。また、説明資料づくりをする過程からも、地域の魅力の再確認の機運が高まりつつある。(大学) 大学、行政、地元三者の協働事業だが、地元にとっては学生の方々の意見や提案が聞ける非常にいい機会になっている。また、学生がきたまちに興味を持ってもらう機会にもなっている。先生方と地元との交流も進んでいる。(まちづくり団体)
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	大学、まちづくり団体、行政ともに、プログラムの継続には「人」のつながりが重要であると感じる。参画する人が変わっても、事業を継続して実施できるようにする工夫が求められる。課題も含め、一緒に議論していく関係を築いていきたい。	きたまちの抱える課題が少しずつ明確になりつつある。本合同授業は昨年より3年間の予定で行うが、それ以後、どのようにまちづくりを進めるのか、まちづくり団体などと話し合い、方針を共有する必要を感じている。(大学) 大学、行政、地元三者の協働という新たな動きであり、地元にとっても、学生・教員・大学にとっても、市にとっても相互に大きなメリットを生み取り組みと思われる。引き続きお互いに連携・協力して取り組みを発展・充実させていきたい。(まちづくり団体)

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	

協働事業								
No.	84	事業名	奈良町見知りル—ちよこっといいとこめぐり—					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	第4回全国町並みゼミ奈良大会実行委員会（きたまちコンセント・NPO法人文化創造アルカ）		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	11月		事業開始年度	令和3年度				
令和3年度事業費	予算額	955		決算(見込)額	917 (単位：千円)			
事業の概要・目的	奈良町の各エリア（ならまち、きたまち、京終、高畑）の既存まちづくり団体、公共施設などが連携して、共通のテーマでの展示や特別公開といったミニイベントを同期間に集中的に行い、奈良町エリアをめぐってもらうためのイベントを毎年開催する。イベントの推進運営を通じて、各種団体、施設などのよこのつながりの強化を目指す。							
目標指標	指標名							
	単位	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
		実績値						
令和3年度取組内容	イベント開催のために、地域のまちづくり団体等で設立する実行委員会と協力し、奈良町エリアでちよこっといとこがめられる施設やスポットを探し、11月のイベント期間に合わせ、特別公開を行ってもらった。奈良市は広報を担当し、奈良町パンフレット、まち歩きルートMAPの内容を実行委員会と協議し、作成。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和3年度事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1			
← ← → → ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				5	5	
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				4	4	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				5	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				4		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				4	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				5		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				5	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	4	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				5	5	
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				5	5		
評価点							41	42

総合点	83	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	共催により実施することで、役割分担を明確にすることができ、実行委員会の自主性を尊重することができた。また、市が主体的に担当する内容についても、協働相手の意見やアイデアを反映させより良い内容で実施することができた。	行政と協働することで、当事業への信頼性が高まった。初めて取り組んだ当事業で、幅広い団体・個人との連携・協力を得る上での大きなメリットとなったと感じる。また、担当者を通じ、行政でストックされている事業の進め方のノウハウなど多くの情報を得られたことも良かった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	事業初年度のため今後も継続して実施するためにはさまざまな課題があるが、それらの課題を共有し、共通目的をもって事業に取り組むことができる関係が築けており、求めることは特にない。引き続き、良好な関係性を構築していきたい。	今回は立ち上げの年で模索しながら当事業を進める中で、柔軟に動いてくださった担当者および担当課各位に感謝の気持ちしかない。今回のようにうまく協働できた事業については、部署を越え、積極的に共有・発信してほしい。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	



協働事業								
No.	86	事業名	第44回全国町並みゼミ奈良大会					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第5章	都市基盤		展開方向			
	基本施策	5-02	景観					
	施策	5-02-01	奈良らしい景観の形成					
	①	歴史と文化を活用したまちづくり						
相手方の名称	実行委員会、NPO法人		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	11月		事業開始年度	令和3年度				
令和3年度事業費	予算額	1,650		決算(見込)額	1,347 (単位:千円)			
事業の概要・目的	地域社会の「くらし」を守り、豊かにしていこうとする住民主導のまちづくり活動である全国町並みゼミは、NPO法人全国町並み保存連盟と連盟加盟団体等が共催し、毎年、全国各地の持ち回りで回刺されている。第44回目となる奈良大会では、「新奈良町にぎわい構想」と関連付け、地域社会の「くらし」を豊かにしてきた「町並みを代表する”まち”の資産」とは何か、誰が、どのように受け継ぎ、引き継ぐのかを改めて考えるシンポジウムを開催する。							
目標指標	指標名							
	単位	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
		実績値						
令和3年度取組内容	「まちの資産のいかしかた」～にを、だれが、どのように～をテーマに、600人規模のシンポジウムを単年度で開催。また、奈良町で活動する街づくり団体、実行委員会、NPO法人と協働し、奈良町で取り組まれている町並み保存、まちづくり活動や全国各地で取り組まれている事例の発表を行い、奈良町の町並み保存、まちづくりについて改めて考える機会を創出。							
今後の方針	完了	拡大、縮小、廃止の理由						



令和3年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価	
	5	4	3	2			1
← できた ← 少しかつた ← どちらとも書かない → できなかつた → できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				4	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				3	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				5	5	
評価点					38	43	

総合点	81	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	事業を協働で実施することができ、関係者間の連携の強化につながった。	全国町並みゼミ奈良大会を共催で開催することができ、その実施を円滑に進めることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	様々な立場の関係者が参画する中、共通の目標をもって実施するには理解しあうための対話が重要であるが、その仕組みづくりに工夫が必要であり、今回の課題を今後活かしていきたい。	協働により双方の役割などを学び、理解し合い、信頼関係を養うことが重要であるが、これにはお互いの意識の一層の醸成が必要であり、行政においても不断の研修などをお願いする。

総合評価がC評価以下または協働の原則に基づいた評価項目の評価点が2点以下の項目がある場合の記入項目	
要因及び今後の改善策	
審議会委員からの意見欄	